

現 場 説 明 書

(仮称) 新港ふ頭10号上屋建設工事 (本体・杭)

令和7年8月

那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課

1 工 事 名 (仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事 (本体・杭)

2 工事場所 那覇港新港ふ頭地区内

3 工事概要 図面記載のとおり

4 概成工期 150日間

※共通費算定に係る工期は、T=5.0か月とする。

5 一般事項

1) 本現場説明書、工事請負契約書、特記仕様書及び設計図書(以下「設計図書等」という。)に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書」、それに基づく監理指針である「建築工事監理指針」による。

2) 本工事では、関係法令を遵守の上、災害又は公害の防止に努めるものとする。

3) 現場要員 現場には次の要員を置くものとする。

a) 現場代理人 請負者と直接的かつ恒常的な雇用関係があり、工事現場に常駐で配置できること。

b) 主任技術者 建設業法による。(※入札公告資料による)

c) 監理技術者 建設業法による。(※入札公告資料による)

d) 専門技術者 設計図書等を熟読し、工事の管理指導ができる者で、かつ設計監理者を通して監督員の承認を受けた者とする。

e) 安全管理者 労働安全衛生法による。

※ 上記技術者は事前に監督員の承諾を得て、現場の工事技術・施工図・工事管理等に十分に対応できるような万全の体制をとること。

※ a)b)及びc)については専任とし、請負者との間に直接的かつ恒常的な雇用関係(入札執行日以前に3ヶ月以上の期間)を有する者でなければならない。なお、これらの者は、資格者証及び健康保険被保険者証の写しを監督員に提出するものとする。

※ 請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間(現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間)については、b)又はc)の工事現場への専任を要しない。なお、現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督員との打合せにおいて定める。

※ 工事完成後、検査が終了し(発注者の都合により検査が遅延した場合を除く)、事務手続、後片付け等のみが残っている期間については、b)又はc)の工事現場への専任を要しない。なお、検査が終了した日は、発注者が工事の完成を確認した旨、請負者に通知した日(工事検査合格通知書における日付)とする。

4) 本工事の施工にあたって、質疑・要望等がある場合は書面にて行い、逐次、監理者かつ監督員と協議の上、施工を行うものとする。

5) 官公庁諸手続き

- ① 本工事に必要な諸官庁及びその他の機関への許認可等必要な申請及び手続きは遅滞なく行い、それに要する費用はすべて請負業者の負担とする。
- ② 資材の搬出入についての諸手続きは、所管警察署及び道路管理者等と十分調整のうえ請負業者が行うこととし、実施にあたっては、関係官公署の指示に従い、特に車両渋滞の防止、一般通行者への安全対策及び公害防止に十分配慮する。

6) 試験結果報告書の提出

使用資材の中で、公的機関による試験結果報告書の必要なものは遅滞なく行い、それに要する費用はすべて請負業者の負担とする。

7) 工程管理会議等

監督員及び監理者との定例工程会議は、週1回行うものとし、主催は監理者、会議の記録は各請負者が行なうものとする。

8) 施工計画等の承諾

工事着手前に総合施工計画書(総合仮設計画書を含む。)及び総合図、各工種施工計画書等を提出し、監督員及び監理者の承諾を得るものとする。

- ① 各工事の請負業者は、工事着手前に総合図により、関連工事を含めた取り合いを検討し、関連工事の請負業者とともに総合図を作成する。ここでいう総合図とは、平面、展開、天井伏等の詳細図に設備工事等の内容を記入した図面であり、特に建具、機器、配管等の位置関係を明確にし、機能上支障をきたさないように検討する。
- ② 総合図による検討をもとに監理者との調整を密にして施工図を作成し、速やかに監督員及び監理者の承諾を得るものとする。
- ③ 監督員及び監理者が施工見本を必要と判断した場合、施工内容、施工程度の判断可能な見本を作成する。見本作成は、工程に余裕を持って行う。
- ④ 施工図は、監理者と連携を密にして作成し、監理者及び監督員の承諾を得るものとする。
- ⑤ 工事着手前に敷地内の作業通路、資材置き場、工事掲示物等の必要事項については、関連工事と調整した上で、必ず仮設計画書を提出し、監督員及び監理者の承諾を得るものとする。

9) 工事用水・仮設電力等

当該工事に必要な電気、電話、水道、排水施設等に要する手続きは請負業者で行い、その設置に要する費用・使用料金等は請負業者の負担とする。

10) 着工前の隣接施設調査及び周辺への配慮

工事により隣接する施設に汚染損壊等影響を与えないよう十分な予防措置を取り、工事に伴い発生する騒音等の公害についても万全の措置を講ずる。

汚染や損壊があった場合は、請負者負担にて速やかに現況回復する。

工事に先立ち、現場内外における隣接施設の状態は調査及び写真撮影等により、現状を十分把握し、施工にあたっての交通処理計画、仮設計画及び地下埋設物対応について十分検討を行う。

以上は、周辺道路等搬入経路についても同様である。

11) 埋設管・道路等の適正管理

- ① 工事敷地内にある下水道管・給水管等について管理・養生を行い、万が一、破損・漏れ等を生じさせた場合には、請負者にて速やかに措置する。また、地下水等が工事に支障をきたす場合も同様に措置する。
- ② 工事期間中、工事車両等によって周辺の道路、側溝、塀、立木及び他の物品に損傷を与えた場合は、請負者の負担により修復する。また、現場からの泥土等により、周辺道路を汚染した場合は、速やかに清掃等を行う。

12) 地域住民生活の安全確保

工事期間中、付近住民の生活上支障ないように、ホコリ、騒音、振動には十分配慮し、監督員等関係者と十分な打ち合わせのうえ、付近住民の苦情対応や、工事の安全管理を徹底する。

13) 土砂、資材等の運搬について

土砂、資材等の運搬にあたっては、積載超過のないようにするとともに、交通安全管理を十分行うこと。

14) 工事による廃材・廃棄物は勿論のこと、現場や現場事務所から搬出される一般ゴミについても分別を行い、リサイクル処理に努めなければならない(マニフェストの提出)。

15) シックハウス

接着剤、合板類、塗装材、ユニット等使用材料は、シックハウス対策品として資材承諾のなかで安全データシート等を添付し、揮発性有機化合物の規定値(厚生労働省の濃度指針値)以下を確認後、監督員の承諾を得る。

安全データシート等の含有確認資料が無い場合は、材料選択の再検討、あるいは公的機関での濃度測定を行い、安全性の確認をする。

特記仕様書の定めにより、施工段階(内装工事塗装後等)、工事完成後に測定を行い書面により報告する。

測定値が規定値以上の場合には請負業者負担にて規定値以下になる策を講ずる。

16) 枠組足場については、原則として、「手すり先行型足場」とし、「手すり先行工法等に関するガイドライン」(厚生労働省)による設置を行うこと。なお、この場合の「手すり先行工法」の足場

は、全層に「二段手すり(又は手すり枠)」と「つま先板(幅木)」のある足場とすること。

17) 使用材料については、再生資源や環境に配慮したものを努めて使用するものとする。

18) 公共建築工事標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。

19) 工事保険等

請負者は、工事施工にあたり、下記の法定外労災補償(建設共済等)及び請負業者賠償責任保険に加入し、保険証券等の写しを工事着手後14日以内に提出しなければならない。その他の保険については、監督員と協議し、新たに付保した場合にはその旨通知するものとする。

保険対象: 請負契約の対象となっている工事全体

保険金額: 請負代金金額(支給材料、貸与品等を含む)

保険期間: 工事着手の時から工期最終日+14日以上

保険条件: イ) 法定外労災補償(建設共済等)

補填限度額1名につき2,000万円以上

ロ) 請負業者賠償責任保険

補填限度額(対人)1名につき5,000万円以上、1災害につき1億円以上

〃 (対物)1災害につき1,000万円以上、免責金額10万円以下

20) 提出書類

① 提出書類は、「別紙 1」による。書式の定めにより遅滞なく提出する。

② 完成図書は、「別紙 2」による。

21) 工事用看板等

「別紙3」を参考に安全表示板、交通標示板等を現場内外の随所に設置する。

22) 監督員事務所等 (規模は監督員と協議による。)

監督員事務所の設置、その備品及び光熱費については請負者がこれを負担する。

監督員事務所の設置にあたっては、監督員及び監理者と協議の上、その詳細を決定するものとする。

監督員事務所の備品については下記のものを用意すること。

・会議用テーブル/折りたたみ椅子 ・事務机及び椅子 ・安全靴及び安全帯、安全帽 ・雨具

・パソコン: インターネット環境設定共(OS: Windows10、アプリ: Excel/Word/outlook) ・カラー複合機

・電話 ・ホワイトボード・書棚 ・事務用品等

6 赤土等流出防止対策

1) 本工事は、沖縄県赤土等流出防止条例届出対象工事となるため、施工にあたっては、当条例に基づく赤土等の流出防止対策を行うものとする。

2) 赤土等流出防止対策については事前に通知された事業行為通知書に基づきこれを行うもの

とする。

- 3) 本工事において、事前に通知された事業行為通知書の内容に変更が生じた場合は、変更通知の手続きを行うものとする。

7 数量公開

- 1) 設計価格算出の透明性を確保し、入札参加者等の積算、工事内訳書作成の効率化を図ることを目的に設計金額のもととなる工事費内訳書から主要な項目を抜粋し、参考資料(参考数量)として公開、提供する。
- 2) 本参考資料(参考数量)は契約上の拘束を受けないものとして公開し、**建設工事請負契約約款第1条に定める設計図書**(図面及び仕様書等)には含まれない。
※参考資料「数量公開の説明書」・「数量書」:(別 添)

8 その他

- 1) 本工事は、建設リサイクル法の対象工事となるため、法に基づき適切な手続きを行うものとする。また、全ての廃材・廃棄物等は原則リサイクルとするが、やむを得ず最終処分場に搬入する産業廃棄物は、産業廃棄物の処理に係わる税(沖縄県産業廃棄物税)が課税されるので適正に処理すること。
- 2) 請負者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や高度な技術力に関する項目、または地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項がある場合は、工事完成時までに書面により提出することができる。
- 3) 請負者は、工事完成後においても、発注者から本工事に関する資料提供、調査依頼又は会計検査等の協力の申し出があった場合は、この求めに応ずるよう努めるものとする。
- 4) 落札業者は、早急に契約手続きを行うよう努めるものとする。
- 5) 契約工期内に提出書類作成も終え、全ての検査及び手直しを終了させること。

別紙 1 【提出書類一覧】

(契約後速やかに提出)

	書類書式	規格	部数	備考
1	営繕工事第 1 号様式	A 4	1	
2	工事着手届け	A 4	1	
3	現場代理人等通知書	A 4	1	資格者証の写し、経歴書、実務経験証明書、健康保険証の写し
4	工事工程表	A 4	1	
5	建設業退職金共済組合掛金収納書	—	1	
6	建設労災補償共済制度加入証明書	—	1	
7	労働保険関係成立届出証明書	—	1	
8	火災保険・組み立て保険等	—	1	写し
9	工事カルテ受領書（写）	A 4	1	
10	再生資源利用計画書	A 4	1	
11	再生資源利用促進計画書	A 4	1	
12	建設工事下請通知書	A 4	1	

(随時提出)

	書類書式	規格	部数	備考
1	建設工事下請通知書	A 4	1	契約書第 7 条
2	施工体制台帳	—	1	
3	施工計画書	A 4	1	各工事着手前
4	使用材料承諾願	A 4	1	規格、寸法等必要資料添付
5	施工図	A 1	1	総合図承認後
6	試験成績書	A 4	1	各種材料
7	実施工程表	A 3	1	工事の着手に先立ち作成・提出
8	CALS システム支払い証明	A 4	1	CALS システム使用許諾料支払い時
9	確認・立ち会い願い	A 4	1	
10	材料検査調書、材料搬入報告書	A 4	1	材料搬入ごとに

工事月報（毎月 5 日迄に提出）

	書類書式（1冊にまとめる）	規格	部数	備考
1	定期報告書（〇月分）	A 4	1	営繕第 3 号様式。 工事監理業務受託者の審査後
2	工事履行報告書	A 4	1	第 11 号様式
3	工事工程表（実施）	A 4	1	営繕第 4 号様式 （計画を黒線、実施を赤線）
4	工事状況報告	A 4	1	営繕第 5 号様式
5	工事写真	A 4	1	営繕第 6 号様式（進捗した部分・全体）
6	県産建設資材使用状況報告書	A 4	1	参考様式 1 各月ごと
7	休日取得状況報告書	A 4	1	任意様式 各月ごと
8	工事打合せに関する記録	A 4	1	

（既済検査時）

	書類書式	規格	部数	備考
1	既済部分検査願	A 4	1	契約書に掲げる回数以内
2	出来高内訳明細書	-	1	出来高のわかる数量書や簡易な図面
3	請求書	A 4	1	既済検査合格後に提出

（完成検査時）

	書類書式	規格	部数	備考
1	完成通知書	A 4	1	
2	県産建設資材使用状況報告書	A 4	1	累計
3	請求書	A 4	1	検査合格後
4	工事目的物引渡書	A 4	1	
5	再生資源利用実施書	A 4	1	
6	再生資源利用促進実施書	A 4	1	
7	ゆいくる材利用状況報告書	A 4	1	
8	ゆいくる材出荷量証明書	A 4	1	

別紙 2

提出書類一覧(完成図書)

	書類書式	規格	部数	備考
1	工事日報	A 4	1	
2	施工計画書	A 4	1	
3	使用資材承諾書、証明書	A 4	1	
4	施工承認図	A 1	1	A 4 サイズに折って提出
5	工事写真	—	1	A 4 サイズに整理して提出 着手前・着工中・完成時 施工計画書等で記載のある段階写真含 オリジナルデータも提出
6	完成図（白図）	A 2	1	A 3 版観音製本
7	完成図（白図）	A 3	1	A 4 版観音製本 オリジナルデータ、PDF
8	電子納品 C D	—	2	(財)沖縄建設技術センター発行の確認証 1 部も添付すること。
9	工事カルテ受領書（写）	A 4	1	
10	鍵等引渡書、取扱説明書	—	1	目録、キープラン含む
11	保全に関する資料	A 4	2	
12	保証書	A 4	1	クリヤホルダーに収納
13	工事完成書類引渡書	A 4	1	目録含む
14	下請通知書	A 4	1	施工体制台帳を添付する
15	産業廃棄物マニフェスト	A 4	1	写し
16	総合図	A 1	1	CAD データ及び PDF
17	使用材料仕上表	A 4	1	検査合格後に提出
18	請求書	A 4	1	検査合格後に提出
19	完成写真		3	黒表紙金文字アルバム 2 部、CD 1 部

※その他監督員の指示によるもの。

別紙 3

工事用看板の表示内容・規格寸法等（参考）

工事名称：（仮称）新港ふ頭 10 号上屋建設工事（本体・杭）
 工 期：令和〇年〇〇月〇〇日～令和〇年〇〇月〇〇日
 発注者：那覇港管理組合 管理者 玉城 康裕
 監督部署：那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課 電話：868-0336 FAX：862-4233
 設計・監理：〇〇〇〇〇
 施 工 者：〇〇〇〇〇
 ※現場連絡先（電話・F A X）記入

（摘要）

大きさ：縦 9 0 0 × 横 1 8 0 0 （mm）程度

額 縁：四方アルミ、グレー色

現場掲示物

掲 示 物	掲示の対象			備 考
	現場事務所	現場内	公衆	
工事名標示板(工事用看板)			○	
建設業許可票			○	建設業法第 40 条
労災保険関係成立票		○		労働者災害補償保険法施行規則第 49 条
建築基準法確認済看板			○	建築基準法第 89 条
施工体系図	○	○	○	建設業法第 24 条の 7-4 公共工事適正化法第 13 条第 3 項
作業主任者看板		○		労働安全衛生規則第 18 条
安全衛生推進者(衛生推進者)看板		○		労働安全衛生規則第 12 条の 4
建退共制度適用工事現場(標識)		○		「建退共制度改善方策について」 H11.3.18
緊急時連絡表	○	○	○	
安全標識	○	○		無災害記録表、作業予定表、KY 活動表
実施工程表	○			
週間作業内容掲示等			○	

(別添)

数量公開の説明書

1. 数量公開の目的

建築及び設備工事における数量公開について、設計価格算出の透明性を確保し、入札参加等の積算、工事内訳書作成の効率化を図ることを目的とする。

2. 数量公開にあたって提供する資料

建築及び設備工事における数量公開とは、設計金額のもととなる工事費内訳書から単価及び金額等を削除するなどしたもの(以下「数量書」という。)を、参考資料(参考数量)として公開、提供するものである。

3. 数量書の取扱いについて

数量書は契約上の拘束を受けない参考資料として公開し、建設工事請負契約約款第1条に定める設計図書(図面及び仕様書等)には含まれない。

4. 数量書について

(1) 数量書の範囲

数量書の範囲は次のとおりとする。

- 1) 数量書は原則として工事費内訳書内を公開範囲とする。
- 2) 工事費内訳書において、数量を一式としている項目の根拠となる数量を記載した別紙明細書
- 3) 共通仮設費や現場管理費の算定の際に必要な応じ積上げられる項目数量を記載した共通費明細書 ただし、2)、3)について軽微なものや任意仮設に係わる数量を記載した別紙明細書及び共通費明細書については除くものとする。

(2) 数量書の作成基準(下記の基準に基づき作成)

1) 構成及び項目

「公共建築物工事内訳書標準様式(建築工事編)、(設備工事編)」

2) 数量

「公共建築(設備)数量積算基準」

3) 共通費

「沖縄県土木建築部建築工事積算基準」

工 事 費 仕 訳 書(参考数量)

工 事 名 称 (仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体・杭)

構 造 S造一部鉄筋コンクリート造

面 積 建築面積:2,035.32㎡ 延床面積: 1,897.10㎡

工 事 費

No	工 事 費 別	金 額	%	備 考
A	工 事 費			
	建築			
	外構【1工区】			
	外構【2工区】			
	工 事 費 計			
B	共 通 費			
	共 通 仮 設 費 (積 上)			
	共 通 仮 設 費 (率)			
	現 場 管 理 費			
	一 般 管 理 費 等			
	磁 気 探 査			
	小 計			
	消 費 税			
	合 計			

[illegible]

[illegible]

別 紙 明 細(参考数量)

上屋(杭)

磁気探査 第 1 号表		磁気探査						1式当り
No	名 称	適用・規格	数 量	単位	単 価	金 額	備 考	
	【探査業務】							
	水平磁気探査	水平探査	88.00	m ²			見積書	
	水平磁気探査	経層探査	141	m ²			見積書	
	鉛直磁気探査	測点設定	22	点			見積書	
	鉛直磁気探査	ボーリング	453	m			見積書	
	鉛直磁気探査	鉛直探査	431	m			見積書	
	運搬費	連絡車(ライトバン)運転	8	日			見積書	
	運搬費	器材運搬 2.9t吊 4t積	1	業務			見積書	
	諸経費		1	式			見積書	
	小計							
	【解析業務】							
	水平磁気探査	計画準備	1	業務			見積書	
	水平磁気探査	解析（報告書作成含む）	229	m ²			見積書	
	鉛直磁気探査	計画準備	1	業務			見積書	
	鉛直磁気探査	解析（報告書作成含む）	431	m			見積書	
	その他原価		1	式			見積書	
	一般管理費		1	式			見積書	
	小計							
			</					

(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体・杭)

上屋(杭)

[illegible]

(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体・杭)

上屋(杭)

[illegible]

(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体・杭)

上屋(杭)

[illegible]

上屋(杭)

[illegible]

(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体・杭)

上屋(杭)

[illegible]

(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体・杭)

上屋(杭)

[illegible]

内 訳 書(参考数量)							
No	名 称	規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
6	撤去工事						
	撤去						
	既設アスファルト撤去	t=10cm・カッター	88.0	m2			見積書
	既設フェンス(2)撤去 H=1.50	150角ワイヤーメッシュ: φ 3.2mm 柱H1500@1900	47.2	m			見積書
	運搬						
	発生材運搬(アスファルト類)	ダンプトラック 10t積級 バックホウ0.8m3 無筋コンクリート類 DID区間有り 19.5km以下	8.8	m3			県単(複)P.138
	処分						
	発生材処分	アスファルト類	13.0	t			実態調査報告書
	発生材						
	スクラップ控除	H2	0.4	t			資材単価算定表P.1
	小 計						

別 紙 明 細(参考数量)

上屋(杭)

直仮 第 1 号表		遣方						1式当り
No	名 称	適用・規格	数 量	単位	単 価	金 額	備 考	
	遣方	一般	2,035	m2			県単(複)P.2	
	計							
	認定額				＝			
No	名 称	適用・規格	数 量	単位	単 価	金 額	備 考	
	計							
	認定額				＝			

別 紙 明 細(参考数量)

上屋(杭)

杭 第 1 号表							
		杭:資材			1ヶ所当り		
No	名 称	適用・規格	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	既製杭 P1	φ 400 PHC上杭85N:B-11.0m	1	本			資材単価算定表P.1
		φ 4055 HF-ONA中杭85N:A-11.0m	1	本			見積書
		φ 4055 HF-ONA下杭85N:A-11.0m	1	本			見積書
		杭長33.0m					
	認定額				≡		
	既製杭 P1T	φ 400 PHC上杭85N:B-11.0m	1	本			資材単価算定表P.1
		φ 4055 HF-ONA中杭85N:A-11.0m	1	本			見積書
		φ 4055 HF-ONA下杭85N:A-11.0m	1	本			見積書
		杭長33.0m					
	認定額				≡		
杭 第 2 号表							
		杭:資材			1ヶ所当り		
No	名 称	適用・規格	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	無溶接金具 P1	φ 400	19	ヶ所			見積書
	無溶接金具 P1T	φ 400	3	ヶ所			見積書
	取付けプレート・付属品	φ 400	44	ヶ所			見積書
	認定額				≡		
	杭運搬費	φ 400 PHC	242	m			見積書
	杭運搬費	φ 4055 HF-ONA	484	m			見積書
	認定額				≡		

別紙明細(参考数量)

上屋(杭)

No	名 称	適用・規格	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
認定額				ヶ所	≡		
杭 第 3 号表杭1式当り							
No	名 称	適用・規格	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	残土処理(セメント混入)		151	m3			見積書
認定額				式	≡		

別紙明細(参考数量)

上屋(杭)

No	名 称	適用・規格	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	掘削・注入費	φ 4055-40	750	m			見積書
	回転埋設費	φ 4055-40	22	本			見積書
	無溶接金具取付費	φ 400	44	ヶ所			見積書
	埋設用金物		22	組			見積書
	杭先端用金物		22	本			見積書
	機械・器具・運搬費	三点式	1	台			見積書
	機械組立解体費	三点式	1	台			見積書
	相半機移動組立解体費		1	台			見積書
	相半機使用料	クローラークレーン 90t	22	日			資材単価算定表P.1
	ミニコンボリース料	バックホウ 0.28	22	日			資材単価算定表P.1
	プラントリース料		22	日			見積書
	コンプレッサーリース料		22	日			県単(複)P.67
	敷き鉄板使用料		1	式			見積書
	根固め溶液	φ 4055-40	22	本			見積書
	杭周固定液	φ 4055-40	22	本			見積書
	汚泥硬化材		22	本			見積書
	セメントサイロ設置費		1	台			見積書
	杭頭中浚い・ヨウカン除去費		22	本			見積書
	地盤改良施工	φ 900-15m×22本	6	日			見積書
	地盤改良セメント		22	本			見積書
	認定額			式	＝		

別紙明細(参考数量)

上屋(杭)

[illegible]

別紙明細(参考数量)

上屋(杭)

[illegible]

[illegible][illegible]

(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体・杭)

[illegible]

内 訳 書(参考数量)							
No	名 称	規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
1	撤去工事						
	既設フェンス(2)撤去 H=1.50	150角ワイヤーメッシュ: φ 3.2mm 柱H1500@1900 胴縁 φ 34mm	151	m			見積書
	既設ガードレール撤去	t3mm φ 115 H390 コンクリート基礎含む	18.5	m			見積書
	既設手摺格子撤去	φ 45 φ 23mm@150 H1000	15.0	m			見積書
	既設アスファルト撤去	アスコンt=10cm カッター・集積共	5125	m2			見積書
	コンクリート製花壇	150×180×340～900	46.6	m			見積書
	コンクリート製縁石	150×180×900	200	m			見積書
	①樹木撤去	幹周:60cm	1.0	本			県単(複)P.119
	②樹木撤去	幹周:38cm	1.0	本			県単(複)P.119
	③樹木撤去	幹周:60cm	1.0	本			県単(複)P.119
	④樹木撤去	幹周:47cm	1.0	本			県単(複)P.119
	⑤樹木撤去	幹周:31cm	1.0	本			県単(複)P.119
	⑥樹木撤去	幹周:35cm	1.0	本			県単(複)P.119
	⑦樹木撤去	幹周:35cm	1.0	本			県単(複)P.119
	⑧樹木撤去	幹周:50cm	1.0	本			県単(複)P.119
	⑨樹木撤去	幹周:50cm	1.0	本			県単(複)P.119
	⑩樹木撤去	幹周:60cm	1.0	本			県単(複)P.119
	⑪樹木撤去	幹周:50cm	1.0	本			県単(複)P.119
	⑫樹木撤去	幹周:50cm	1.0	本			県単(複)P.119
	⑬樹木撤去	幹周:60cm	1.0	本			県単(複)P.119
	⑭樹木撤去	幹周:60cm	1.0	本			県単(複)P.119
	⑮樹木撤去	幹周:60cm	1.0	本			県単(複)P.119
	⑯樹木撤去	幹周:57cm	1.0	本			県単(複)P.119
	小 計①						

外構(1工区)

[illegible]

(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体・杭)

外構(2工区)

[illegible]

内 訳 書(参考数量)							
No	名 称	規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
2	撤去工事						
	既設側溝撤去(カット)		167	m			見積書
	カット部 表面グラインダー仕上げ	表面グラインダー仕上げ アスコンt=10cm	25.0	m ²			見積書
	既設アスファルト撤去	クラッシャーラン t35cm	428	m ²			見積書
	コンクリート製花壇	150×180×340～900	50.9	m			見積書
	①樹木撤去	幹周:50cm	1.0	本			県単(複)P.119
	②樹木撤去	幹周:50cm	1.0	本			県単(複)P.119
	③樹木撤去	幹周:41cm	1.0	本			県単(複)P.119
	④樹木撤去	幹周:41cm	1.0	本			県単(複)P.119
	⑤樹木撤去	幹周:57cm	1.0	本			県単(複)P.119
	⑥樹木撤去	幹周:22cm	1.0	本			県単(複)P.119
	⑦樹木撤去	幹周:41cm	1.0	本			県単(複)P.119
	⑧樹木撤去	幹周:50cm	1.0	本			県単(複)P.119
	⑨樹木撤去	幹周:28cm	1.0	本			県単(複)P.119
	⑩樹木撤去	幹周:53cm	1.0	本			県単(複)P.119
	⑪樹木撤去	幹周:47cm	1.0	本			県単(複)P.119
	発生材運搬(コンクリート類)	ダンプトラック 10t積級 バックホウ0.8m3 無筋コンクリート類 DID区間有り 19.5km以下	5.1	m3			県単(複)P.138
	発生材運搬(アスファルト類)	ダンプトラック 10t積級 バックホウ0.8m3 無筋コンクリート類 DID区間有り 19.5km以下	42.8	m3			県単(複)P.138
	発生材運搬(石類)	ダンプトラック 10t積級 バックホウ0.8m3 無筋コンクリート類 DID区間有り 19.5km以下	150	m3			県単(複)P.138
	発生材運搬(木材類)	ダンプトラック 4t積級 バックホウ28m3 木材類 DID区間有り 17.0km以下	0.6	m3			県単(複)P.135
	発生材処分	無筋コンクリート類	11.8	t			実態調査報告書
	発生材処分	アスファルト類	72.8	t			実態調査報告書
	発生材処分	石類	225	t			実態調査報告書
	発生材運搬	伐採木	0.3	t			実態調査報告書
	小 計						

(仮称) 新港ふ頭10号上屋建設工事 (本体・杭)

令和 7 年度

那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課

工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上屋建設工事 (本体・杭)					工事年度	令和 7 年度	
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地					図面名称	表紙	
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課					縮 尺		
摘 要						図面番号	A-00	
						設 名 称	株式会社 アーキ5D	
審 査	課長	技術調整監	班長	主幹	担当者	計 資格者氏名	新里 均	
						登 録 番 号	一級建築士大臣登録第218581号	
						所 在 地	沖縄県宜野湾市普天間2丁目47番16号	

[illegible]

工程名稱	(名稱) 新橋東頭10間上層建築工程 (本体、柱)	工程年度	令和7年度
工程場所	那覇市港町1丁目204番地、205番地	建築名称	圖書目錄
発注機関	那覇港管理組合 全面建設部 計画建築課	縮尺	—
摘要		図面番号	A-01
検印	管理建築士 設 計 製 図	設 名 称 (棟)	新橋一キ5D
		資格所在地	那覇市 久
		登録番号	第一級建築士大臣登録第218581号
		省 氏 名	沖縄県那覇市湊市街2-47-16

①一般共通事項（続き）	15 主任技術者・監理技術者	(1) 工事請負代金額が4,500万円以上（建築一式工事の場合9,000万円以上）の工事については、主任技術者又は監理技術者を現場ごとに専任で配置する。なお、専任を要しない期間は、次のとおりとする。 ア 現場施工に着手するまでの期間 【現場施工に着手する日が確定している場合】 請負契約の締結の日の翌日から令和 年 月 日までの期間については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任は要しない。 【現場施工に着手する日が確定していない場合】 （現場施工に着手する日が確定していない期間） 請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所等の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。なお、工事施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督員との打合せにおいて定める。 イ 検査終了後の期間 工事完成後、検査が終了し（発注者の都合により検査が遅延した場合を除く）、事務手続、後片付け等のみが残っている契約工期中の期間については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。 (2) 主任技術者及び監理技術者の雇用関係について ア 建設業法第26条の規定により、工事現場に専任で配置する主任技術者又は監理技術者は、受注者と入札執行日より前に3か月以上の雇用関係が成立していなければならない。 イ 受注者は、着手届と共に工事現場に専任で配置する主任技術者又は監理技術者の雇用関係を証明する書類（健康保険被保険者証等の写し）を提出しなければならない。	20 技能士（1.5.2）	21 化学物質の濃度測定（1.5.10）	22 完成時の提出図書（1.7.1）（1.7.2）（1.7.3）	<table><tr><th>適用工事種別</th><th>技能検定作業</th></tr><tr><td>地業工事</td><td>杭施工</td></tr><tr><td>磁気探査工事</td><td>磁気探査</td></tr></table> (1) 測定時期、測定対象室及び測定箇所数 <table><tr><th>測定対象室</th><th>測定箇所数</th><th>測定時期</th><th>備考</th></tr></table> (2) 測定対象化学物質が濃度指針値を超えた濃度で検出された場合は、引渡は受けない。 ※完成図 ※保全に関する資料 (1) 本工事の完成時の提出図書は、「営繕工事における工事関係図書等に関する効率化実施要領（案）」による。 (2) 完成図は、（表1.7.1）に次表を含むものとする。 <table><tr><th>種類</th><th>記入内容</th></tr><tr><td>詳細図</td><td>監督員との協議による。</td></tr></table> (3) 本工事は電子納品対象工事とする。 電子納品とは、調査、設計、工事などの各段階の最終成果を電子データで納品することという。ここでいう電子データとは、各種電子納品要領・基準等（以下、「要領」）に示されたファイルフォーマットに基づいて作成されたものを指す。 なお、書面における署名又は押印の取り扱いについては、別途監督員と協議するものとする。 (4) 工事完成図書は、「要領」に基づいた電子データとなっている（公財）沖縄県建設技術センターにて確認を受け、「電子納品確認登録証」の発行を受けること。 業務成果品（工事完成図書）は、電子媒体（CD-R等）で（正）1部提出すること。 「要領」で特に記載が無い項目については、監督員と協議の上、電子化のファイルフォーマットを決定すること。 なお、「紙」による提出物は、監督員と協議の上決定すること。 (5) 受注者は、完成通知書の送付書類として以下の書類及び電子データを監督員に提出しなければならない。 ア ゆいくる材利用状況報告書 イ ゆいくる材出货量証明書 (6) 建築物等の利用に関する説明書について ・「建築物等の利用に関する説明書」を作成する。作成の手引き（国土交通省ホームページに掲載）を参考にして、記載事項は監督員との協議により決定する。 (7) 受注者は、監督員より「長期保全計画書」の作成の指示があった場合、これを作成し監督員に提出しなければならない。 なお、この計画書の内容等は監督員との協議により決定する。	適用工事種別	技能検定作業	地業工事	杭施工	磁気探査工事	磁気探査	測定対象室	測定箇所数	測定時期	備考	種類	記入内容	詳細図	監督員との協議による。																																																											
	適用工事種別	技能検定作業																																																																													
地業工事	杭施工																																																																														
磁気探査工事	磁気探査																																																																														
測定対象室	測定箇所数	測定時期	備考																																																																												
種類	記入内容																																																																														
詳細図	監督員との協議による。																																																																														
16 主任技術者等の資格	(1) 主任技術者及び監理技術者の資格については、入札公告、現場説明資料等による。なお、入札公告、現場説明資料等で示されていない場合、主任技術者等の資格は、以下による。 ・ 1級建築士、又は1級建築施工管理技士のいずれかの資格を有するもの ・ 1級建築士、2級建築士、1級建築施工管理技士、又は2級建築施工管理技士のいずれかの資格を有するもの ア 監理技術者には、監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了証を有する者であること。 イ 配置予定技術者には、入札開始日前に3か月以上の直接的かつ恒常的な雇用関係があること。 ウ 配置予定技術者の専任を要しない期間については、設計図書等で確認すること。 (2) 発注者へ資格を証明する資料を提出すること。	17 主任技術者又は監理技術者の兼務	※ 本工事は、建設業法第26条第3項ただし書の規定の適用を受ける主任技術者又は監理技術者の配置を認める。この場合の要件は、現場説明書による。 ・ 本工事は、建設業法第26条第3項ただし書の規定の適用を受ける主任技術者又は監理技術者の配置を認めない。	23 設計図CADデータの貸与	24 情報共有システム	25 墜落制止用具	26 「労務費見積り尊重宣言」促進モデル工事	27 建設キャリアアップシステム（CCUS）活用について																																																																							
18 工事の保険等	(1) 次の工事関係保険に加入すること。なお、保険の加入期間は、原則として工事着工日から工事完成期日後14日以上とする。 【火災保険】建設工事被保険者（請負業者賠償責任保険） (2) 建設労災補償金共済又はこれに準ずる共済、保険に加入し、契約後1月以内に加入を証明する書類を発注者に提出する。 (3) 建設業退職金共済制度に加入し、次の項目を遵守すること。 ア 掛金収納書を契約後原則1ヶ月以内（電子申請方式による場合）にあっては契約後原則40日以内に（発注者に提出する。 イ 当該建設現場に「建設業退職金共済制度適用事業主工事現場」標識を掲示する。 ウ 未加入下請事業者に対する加入を指導する。 エ 工事完成後、速やかに掛金加入当業種総合表を作成し、検査職員に提示しなければならない。	19 ゆいくる材について	(1) 本工事で使用するリサイクル資材は、特定建設資材廃棄物を原材料とするゆいくる材に限り、原則「ゆいくる材」とする。それ以外を原材料とするゆいくる材は準採用として使用することとする。ただし、ゆいくる材がない離島等での工事の場合は、ゆいくる材以外の再生資材を使用できる。なお、ゆいくる材以外の再生資材を使用する場合も「ゆいくる材品質管理要領」に準じて品質管理を実施すること。また、ゆいくる材の在庫がない等により使用することができない場合は、新材を使用すること。 (2) ゆいくる材の品質管理 ア ゆいくる材の品質管理にあたっては、「標準仕様書」等のほか「ゆいくる材品質管理要領」に基づいて行うこと。 イ 受注者は、工事請負代金額が500万円以上でゆいくる材を使用する場合、着手後に公益財団法人沖縄県建設技術センターあてに「ゆいくる材品質管理依頼」を行い、必要書類の交付を受けなければならない。 ウ 受注者は、路盤材のサンプル送付試験のサンプル採取及び現場への資材初回搬入時と敷き均し転圧完了後の現場簡易試験を監督員の立会の下、実施しなければならない。 エ 受注者は、路盤材の現場簡易試験が終了した場合、速やかに監督員に試験結果を報告しなければならない。																																																																												
②仮設工事	①工事用水 ②工事用電力 ③環境対策について 4 足場その他（2.2.4） ⑤監督員事務所（2.3.1）	構内既存の施設①・利用不可 ・利用できる（・有償 ・無償） 構内既存の施設②・利用不可 ・利用できる（・有償 ・無償） (1) 受注者は、本工事の施工にあたり、「沖縄県赤土等流出防止条例」、「水質汚濁防止法」及びその他環境保全に関する法令等を遵守し、その対策については工事着手前に現場状況の調査、検討を十分に行い、監督員の確認を得た上で施工すること。 (2) 赤土等流出防止対策を行う場合、その対策範囲は図示による。 ③「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」におけるの2「手すり据置方式又は3「手すり先行専用足場方式」により行う。 <table><tr><th>規模（㎡）</th><th>監督員と協議による</th></tr><tr><td>床</td><td>監督員と協議による</td></tr><tr><td>仕上り 内壁・天井</td><td>監督員と協議による</td></tr><tr><td>屋根</td><td>監督員と協議による</td></tr><tr><td>備品の種類及び数量</td><td>監督員と協議による</td></tr></table>	規模（㎡）	監督員と協議による	床	監督員と協議による	仕上り 内壁・天井	監督員と協議による	屋根	監督員と協議による	備品の種類及び数量	監督員と協議による	③土工	①埋戻し及び盛土（3.2.3）（表3.2.1） ②建設発生土の処理（3.2.5） 建設発生土の処分は次による。 ※ 構外搬出適切な処理 搬出先名称（ ） 搬出先所在地（ ） 運搬距離（ km ） 搬出先基準（条件）（ ） ・ 構内堆積 ・ 構内敷きならし	④地業工事	1 載荷試験（4.2.3）（4.2.4） <table><tr><th>載荷試験の種類</th><th>試験の方法</th><th>試験の位置</th><th>載荷荷重</th><th>報告書の記載事項</th></tr><tr><td rowspan="2">杭</td><td>・水平試験</td><td>・図示</td><td>・図示</td><td>・図示</td></tr><tr><td>・鉛直試験</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td rowspan="2">地盤</td><td>・平板載</td><td>・図示</td><td>・図示</td><td>・図示</td></tr><tr><td>・荷試験</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr></table>	載荷試験の種類	試験の方法	試験の位置	載荷荷重	報告書の記載事項	杭	・水平試験	・図示	・図示	・図示	・鉛直試験	・	・	・	地盤	・平板載	・図示	・図示	・図示	・荷試験	・	・	・	②杭地業 ※構造図特記仕様書参照 ※地盤改良（孔壁保護） 1杭芯土=15mm程度 施工に際し十分に検討作業を行う事 ※杭芯位置の施工報告書を提出する事 ※杭芯の施工精度 水平方向のずれはD/4（杭径D）、かつ、100mm以下とする。 ※杭頭補強筋は（ハイルスタッド）次期工事とする。	(1) 杭地業の種類と工法（4.3.1）（4.4.4）（4.5.1） 杭地業の種類 工法 ・ 速力力高強度プレストレストコンクリート杭（PHC杭） ・ セメントミルク工法 ・ プレストレスト鉄筋コンクリート杭（PRC杭） ・ 特定埋設杭工法 ・ フレーミング拡大根固め工法（PRC杭） ・ 中掘り拡大根固め工法 ・ 鋼杭地業 ・ （ ）工法 ・ 場所打ちコンクリート杭地業 ・ アースドリル工法 ・ （ ）工法 (2) 杭の寸法等（4.2.2）（4.3.3）（4.4.3）（4.5.4） <table><tr><th>杭径</th><th>杭長（m）</th><th>種類</th><th>継手数</th><th>先端部の形状</th><th>備考</th></tr></table> 試験杭 位置は図示による 本杭 (3) 杭の品質等（4.3.4）～（4.3.8）（4.4.4）～（4.4.6） 設計支持力 推定支持力 水平方向のずれ傾向 継手工法 杭頭の処理 の算定方法 (4) 支持層（4.3.4）（4.3.5）（4.5.5）（4.5.6） <table><tr><th>支持層の位置</th><th>支持層の種類</th><th>支持層への掘削深さ</th><th>支持層への根入れ深さ</th></tr></table> (5) 場所打ちコンクリートにおける材料等（4.5.4） ア 鉄筋 <table><tr><th>帯筋</th><th>鉄筋の最小かぶり厚さ</th><th>備考</th></tr></table> 【・（参-22）図示】 イ セメントの種類 【・ 普通ポルトランドセメント ・ 図示】 ウ コンクリート <table><tr><th>設計基準強度</th><th>種類</th><th>備考</th></tr></table>	杭径	杭長（m）	種類	継手数	先端部の形状	備考	支持層の位置	支持層の種類	支持層への掘削深さ	支持層への根入れ深さ	帯筋	鉄筋の最小かぶり厚さ	備考	設計基準強度	種類	備考	5 鉄筋工事 ※構造図特記仕様書参照 6 機械式継手 ⑥コンクリート工事	1 鉄筋（5.2.1） ※構造図特記仕様書参照 2 溶接金網（5.2.2） 3 継手及び定着（5.3.4） ※構造図特記仕様書参照 4 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（5.3.5） ※構造図特記仕様書参照 5 各部配筋（5.3.7） ※構造図特記仕様書参照 6 機械式継手 ⑦コンクリート工事 ⑧コンクリートの材料 3 コンクリートの強度試験 4 コンクリート打放し仕上げ（6.2.5）（6.8.1） 5 コンクリートの品質管理 6 打継ぎ（6.6.4） ⑨型枠（6.8.1）（6.8.2） 8 軽量コンクリート（6.10.1）（6.10.2） 9 暑中コンクリート ⑩品質確保	<table><tr><th>種類の記号</th><th>呼び名（mm）</th><th>備考</th></tr></table> <table><tr><th>網目の形状</th><th>寸法</th><th>鉄線の経</th><th>備考</th></tr></table> (1) 継手の種類等 施工部位 継手の種類 備考（重ね継手の長さ等） (2) 柱、梁の主筋の継手を同一箇所には、応力集中やコンクリートの充填性等について十分検討し、監督員の承諾を受けて施工すること。 (3) 鉄筋の定着長さ【※図示による。 ・ 】 (1) 軽量コンクリートの場合の最小かぶり厚さ； (2) 塩害を受けるおそれのある部分等の位置及び最小かぶり厚さ； (3) 機械式継手及び溶接継手の場合のあきの寸法； <table><tr><th>施工箇所</th><th>配筋の方法</th><th>その他特記すべき事項</th></tr></table> 【・（参- ）による。 ・ 図示】 【・（参- ）による。 ・ 図示】 機械式継手の種類： ・ 図示 ・ ①コンクリートの強度 ※構造図特記仕様書参照 ②コンクリートの材料 3 コンクリートの強度試験 4 コンクリート打放し仕上げ（6.2.5）（6.8.1） 5 コンクリートの品質管理 6 打継ぎ（6.6.4） ⑦型枠（6.8.1）（6.8.2） 8 軽量コンクリート（6.10.1）（6.10.2） 9 暑中コンクリート ⑩品質確保	種類の記号	呼び名（mm）	備考	網目の形状	寸法	鉄線の経	備考	施工箇所	配筋の方法	その他特記すべき事項	<table><tr><th>気乾単位容積質量による種類</th><th>類別等</th><th>設計基準強度（Fc）</th><th>施工部位</th></tr></table> ① 普通コンクリート ※Ⅰ類 ・ 軽量コンクリート ・Ⅱ類 ・ 普通コンクリート ※Ⅰ類 ・ 軽量コンクリート ・Ⅱ類 ・ 普通コンクリート ※Ⅰ類 ・ 軽量コンクリート ・Ⅱ類 （6.2.1）（6.2.2）（6.2.3）（6.10.1）（6.13.1）（6.14.1）（6.15.1） (1) セメントの種類 【※普通ポルトランドセメント ・ フライアッシュセメントB種 ・ 】 (2) フライアッシュセメントB種の適用箇所：【・ 図示 ・ 】 (3) 骨材のアルカリシリカ反応性による区分： ※A ・ B（6.3.1） 材齢28日圧縮強度の推定に用いる供試体は現場における「水中養生」とする。 <table><tr><th>仕上げる種別</th><th>打増し厚さ</th><th>施工部位</th><th>備考</th></tr></table> 意匠図参照 工事に使用するコンクリートは事前に試し練りを行い、その品質等が設計図書の規定に適合していることを確認し、監督職員に報告する。 打継ぎ目地の寸法は、図示による。 (1) 外部に面する打放し仕上げの打増し厚さ 【・ 20mm ・（ ）mm】 (2) ひび割れ誘発目地の位置、形状及び寸法は、図示による。 (3) MCR工法の適用： ・有【 ・ 使用箇所： ・ 図示 ・ 】 暑中コンクリートの適用は【都道府県】の日平均気温の平年値が25℃を超える【6月2日】から【10月17日】までとする。 （注）適用する場合は、気象庁HPより日平均気温の平年値を確認し、【 】を記載すること。 レディミクストコンクリートの品質確保については、「レディミクストコンクリートの品質確保について」（平成15年11月10日付国営建第95号）及び「レディミクストコンクリートの品質確保について」の運用について」（平成15年11月10日付国営技第71号）を適用する。	気乾単位容積質量による種類	類別等	設計基準強度（Fc）	施工部位	仕上げる種別	打増し厚さ	施工部位	備考
規模（㎡）	監督員と協議による																																																																														
床	監督員と協議による																																																																														
仕上り 内壁・天井	監督員と協議による																																																																														
屋根	監督員と協議による																																																																														
備品の種類及び数量	監督員と協議による																																																																														
載荷試験の種類	試験の方法	試験の位置	載荷荷重	報告書の記載事項																																																																											
杭	・水平試験	・図示	・図示	・図示																																																																											
	・鉛直試験	・	・	・																																																																											
地盤	・平板載	・図示	・図示	・図示																																																																											
	・荷試験	・	・	・																																																																											
杭径	杭長（m）	種類	継手数	先端部の形状	備考																																																																										
支持層の位置	支持層の種類	支持層への掘削深さ	支持層への根入れ深さ																																																																												
帯筋	鉄筋の最小かぶり厚さ	備考																																																																													
設計基準強度	種類	備考																																																																													
種類の記号	呼び名（mm）	備考																																																																													
網目の形状	寸法	鉄線の経	備考																																																																												
施工箇所	配筋の方法	その他特記すべき事項																																																																													
気乾単位容積質量による種類	類別等	設計基準強度（Fc）	施工部位																																																																												
仕上げる種別	打増し厚さ	施工部位	備考																																																																												
工事名称	（名称）新港ふ頭10号上層建設工事（本体・付）	工事年度	令和 8 年度																																																																												
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	建築工事特記仕様書（その2）																																																																												
発注機関	沖縄県土木建築部施設建設課	縮 尺	—																																																																												
摘 要		図面番号	A-03																																																																												
管理建築士	設 計	製 図	新 里 均																																																																												
設計者	資格者氏名	称	（株）アーキ5D																																																																												
図 録	登録番号	一級建築士大臣登録第2185814																																																																													
所 在 地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-1																																																																														

7 鉄骨工事	①鋼材(7.2.1) (表7.2.1) ※構造図特記仕様書参照	記号の種類適用箇所備考 構造図形状及び寸法は、図示による。	5外壁パネル工法 (8.4.3)(8.5.3)	(1)地震に対する安全性 設計用震度(K _d) 設計用震度(帳壁(仕上及び構造体から仕上面までの接合部材)の性能) 設計用水平震度(K _h)※1.0・ 設計用鉛直震度(K _v)※0.5・ (2)構造体の層間変形に対する追従性 層間変形帳壁(仕上及び構造体から仕上面までの接合部材)の性能 ・1/100 ・1/200 左記の層間変形角に対して、脱落しないこと・	11 タイル工事	1タイル (11.2.2)(11.3.2)	(1)タイルの種類 施工箇所形状・寸法うわぐすり吸水率役物色耐滑り性 (2)タイルの試験張り:・行う・行わない (3)タイルの見本焼き:・行う・行わない 壁タイル張りの工法等 タイルの種類大きさ工法張付け材料の種類、塗厚等 モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理: 【・MCR工法・目荒らし工法】	13 屋根及び びとい工事	1長尺金属金属板 (13.2.2)	施工箇所屋根葺き形式板及びコイルの種類塗膜の耐久性、めっき付着量の種類の表示記号厚さ等 下葺材料:【・アスファルトフーグ940・改質アスファルトフーグ】 施工箇所形式の区分山・山形・山形耐力による区分材料による区分厚さ (1)軒先面戸板の適用:【○有り・なし】 (2)断熱材張り○実施する・実施しない (1)瓦は沖縄県産の赤瓦とする。 (2)沖縄県技能評価認定制度に基づく琉球赤瓦施工技能評価試験の瓦葺き作業及び漆喰塗り作業に合格した者を、適用する作業中において次の条件で配置し自ら施工すると共に、他の技能者に對して施工品質の向上を図るための作業指導を行うこと。 【・1名以上配置 ・施工面積m2につき、級技能評価試験に合格した者を1名配置】 (1)瓦の緊結方法:() 材種規格名称材質備考 硬質ポリ塩化ビニル管JIS K 6741VP種別名称 規格名称及び寸法	②折板 (13.3.2)	3県産瓦葺	4瓦 (13.4.3)	⑤とい(13.5.2) (表13.5.1)	14 金属工事	1あと施工アンカー(14.1.3)	あと施工アンカーの引抜試験:【・実施する・実施しない】 表面処理の種類をB-1種又はB-2種としたときの複合皮膜の種類:【・A1・A2】(JIS H 8602) (14.2.2)(14.7.2)(表14.2.1) 施工箇所種類表面処理方法 (14.2.3)(表14.2.2) 屋外の軽量鉄骨天井下地 野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔 野縁の間隔備考 ・補強方法等(図示による)	2アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 (14.2.2)(14.7.2)(表14.2.1)	3鉄鋼の亜鉛めっき (14.2.3)(表14.2.2)	4軽量鉄骨天井下地 (14.4.3)(14.4.4)	5金属成形板張り (14.6.2)(14.6.3)	(1)金属成形板の種類及び表面処理: (2)長尺の場合における伸縮調整継手: (1)構成部材による種類: (2)アルミニウム製笠木本体の材料の表面処理の種類及び複合皮膜の種類は次による。 種類:【・A-1・B-1】 種類をB-1とした場合の複合皮膜の種類: 【・A1・A2】(JIS H 8602) (3)固定金具の間隔及び固定方法: (1)取付金具の防錆処理(小ねじを含む)を行う	6アルミニウム製笠木(14.7.2) (14.7.3) (表14.7.1)	7防錆処理	19 左官工事	2土壌の防蟻処理 (1)施工箇所:「防除施工標準仕様書」(公益社団法人日本しろあり対策協会発行)I新築建築物しるあり予防処理標準仕様書4処理の箇所(認定品)に準ずることとし、建築物の外周処理を含む。 (2)処理薬剤:(公社)日本しろあり対策協会又は(公社)日本木材保存協会(認定品)に準ずることとし、建築物の外周処理を含む。 (3)処理方法:「防除施工標準仕様書」I新築建築物しるあり予防処理標準仕様書3処理の方法に準ずる。また、土間コンクリートを打設する部分には、薬剤処理後、厚さ0.15mmポリエチレンフィルム敷きを行う。 木材処理(防蟻・防虫) (1)施工箇所:合板、集成材等を除く全ての木材 (2)処理方法:工場における加圧式とし、十分に乾燥を行う。ただし、現場における加工が生じた場合には、加工した箇所に対して、現場にて木材保存剤を塗布する。 (3)性能区分:性能区分は次による。ただし、監督員の指示を受けた部材については、その指示に従うものとする。 ア 造作材にラワン材等広葉樹を使用する場合は、JASの保存処理K1+保存処理K3とする。 イ 構造材、下地材については、JASの保存処理K3とする。 4防蟻処理、防虫処理の施工及び保証 (1)公益社団法人日本しろあり対策協会の認定した「しろあり防除施工士」とする。ただし、工場における処理及び監督員の承諾を受けた場合はこの限りではない。 (2)元請業者と施工業者の連署による保証書を監督員に提出する。なお、期間は、処理施工後5年とする。	1ラス系下地 (15.2.4)	(1)種類:・通気工法(・二重下地・単層下地) ・直貼り工法(・ラスモルタル下地・ラスシートモルタル下地) ・外装断熱工法(断熱材の外側に鋼線を施工する形式の通気工法を行う場合) (2)建築基準法に基づく耐力壁、防火構造、準耐火構造等の指定がある場合の下地の仕様 材料種類厚さ (1)モルタル:・現場調合材料・既調合材料() (2)既製目地材の適用及び形状: (3)床の目地の設置及び形状: (4)外装タイル張り下地等の下地モルタルの接着剤試験: 【・実施する・実施しない】	2せつこうボード その他のボード 下地(15.2.5)	3モルタル塗り (15.3.2)(15.3.5)	工事名称(名称)新築ふ頭10号上屋建設工事(本体・付) 工事年度令和8年度 工事場所那覇市港町1丁目204番地・205番地 図面名称建築工事特記仕様書(その3) 発注機関沖縄県土木建築部施設建設課 縮尺 概要図面番号A-04 管理建築士設計製図 設計者(株)アーク5D 資格者氏名新里均 登録番号一級建築士大臣登録第218581号 所在地沖縄県宜野湾市普天間2-47-1
	②高力ボルト (7.2.2)(7.3.2)(7.4.2)(7.4.7) ※構造図特記仕様書参照	種類径線端距離間隔ゲージ備考 構造図 すべり係数試験:【・実施する・実施しない】 試験の方法、試験片の摩擦面の処理:【・図示・】				③普通ボルト (7.2.3)(7.3.2) ※構造図特記仕様書参照	④アンカーボルト (7.2.4)(7.3.2)(7.10.3) (表7.10.1) ※構造図特記仕様書参照		⑤デッキプレート (7.2.7)(7.7.8)		⑥スタッド (7.2.8)	⑦柱底均しモルタル (7.2.9)	8材料試験等 (7.2.10)	9仮組(7.3.10)	⑩溶接 (7.6.3)(7.6.4)(7.6.7)(7.6.12)	⑪塗料の種類 (7.8.4) (表18.3.1)	12耐火被覆の種類及び性能 (7.9.2)(7.9.3)	⑬その他(7.11.2)(7.12.5)	1補強コンクリートブロック造 (8.2.2)(8.2.4)(8.2.5)	2コンクリートブロック帳壁及び 壁(8.3.2)-(8.3.4)	3ALCパネル (8.4.2)-(8.4.5) (表8.4.3)	4押出成形セメント板(ECP) (8.5.2)-(8.5.4) (表8.5.1)(表8.5.2)	10 石工事	1石材(10.2.1) (表10.2.1)(表10.2.2)	2壁の石張り工法 (10.3.2)(10.4.2)(10.5.2)	3床及び階段の石張り (10.6.2)(10.6.3)	4特殊部位の石張り(10.7.1) (10.7.2)(10.7.3)	1土壌の防蟻処理 (1)施工箇所:「防除施工標準仕様書」(公益社団法人日本しろあり対策協会発行)I新築建築物しるあり予防処理標準仕様書4処理の箇所(認定品)に準ずることとし、建築物の外周処理を含む。 (2)処理薬剤:(公社)日本しろあり対策協会又は(公社)日本木材保存協会(認定品)に準ずることとし、建築物の外周処理を含む。 (3)処理方法:「防除施工標準仕様書」I新築建築物しるあり予防処理標準仕様書3処理の方法に準ずる。また、土間コンクリートを打設する部分には、薬剤処理後、厚さ0.15mmポリエチレンフィルム敷きを行う。 木材処理(防蟻・防虫) (1)施工箇所:合板、集成材等を除く全ての木材 (2)処理方法:工場における加圧式とし、十分に乾燥を行う。ただし、現場における加工が生じた場合には、加工した箇所に対して、現場にて木材保存剤を塗布する。 (3)性能区分:性能区分は次による。ただし、監督員の指示を受けた部材については、その指示に従うものとする。 ア 造作材にラワン材等広葉樹を使用する場合は、JASの保存処理K1+保存処理K3とする。 イ 構造材、下地材については、JASの保存処理K3とする。 4防蟻処理、防虫処理の施工及び保証 (1)公益社団法人日本しろあり対策協会の認定した「しろあり防除施工士」とする。ただし、工場における処理及び監督員の承諾を受けた場合はこの限りではない。 (2)元請業者と施工業者の連署による保証書を監督員に提出する。なお、期間は、処理施工後5年とする。	1天然石 施工箇所種類表面仕上げの種類 (2)テラゾ 施工箇所種石の種類、大きさ形状及び寸法表面仕上げの種類 (1)工法、加工等 工法厚さ石表面処理裏打ち処理備考 (2)乾式工法の方法:【・スライド方式・ロッキング方式】 (3)あと施工アンカーの材質及び寸法: (4)外壁湿式工法に使用するドレンパイプの材質: 厚さ石表面処理目地幅備考 施工箇所工法石材の厚さ石表面処理裏打ち処理備考	①防水の種類 (9.2.2)(9.3.2)(9.4.2)(9.5.2)(9.6.1) (9.2.3)(9.3.3)(9.4.3)(9.5.3)(9.6.3) (表9.2.3)-(表9.2.9)(表9.3.1)-(表9.3.3) (表9.4.1)-(表9.4.3)(表9.5.1)(表9.5.2)(表9.6.2) (3)その他の材料等 ・押え金物:(材質)(寸法) ・絶縁用シート:(材質)(厚さ) ・断熱材:(材質)(厚さ) ・立上り部保護:(材料)(工法等) ・脱気装置:(種類)(設置数) ・仕上り塗料:(種類)(使用量) (4)施工 ・下地の処理方法等:() シーリング材の種類施工箇所試験等 変成シリコン系(耐塩性)コンクリート※簡易接着性試験 変成シリコン系(MS-2)サツンシリ※簡易接着性試験 シリコン系(SR-1)水廻り※簡易接着性試験 ポリサルファイド系(SP-2)石廻り・ (1)元請業者、施工業者、製造所の三者連署による保証書を監督員に提出する。 (2)保証期間は、工事完成後【10】年間とする。ただし、アスファルト防水は【】年間とする。	②シーリング (9.7.2)(9.7.3)(9.7.5)(16.14.5)(17.3.2)

15 左官工 事（ 続き）	⑧ 仕上塗材仕上 げ(15.6.2) (表15.6.1)	<table><tr><th>種類</th><th>呼び名</th><th>仕上りの形状・工法等</th></tr><tr><td>複層仕上塗材</td><td>複層塗材E</td><td>凹凸吹 吹付</td></tr></table>	種類	呼び名	仕上りの形状・工法等	複層仕上塗材	複層塗材E	凹凸吹 吹付	⑩ 鍵 (16.8.4)	(1) マスターキー：○製作する ・ 製作しない (2) 関連工事がある場合は、受注者間で協議し1つの鍵箱にまと めて納品する。	5 フローリングボ ードの特種張り (19.6.2)	体育館、武道場等の床の強度、弾力性を特に要求される広い床 は、日本体育床下地工業会編「体育館床工事標準施工要領書」に よる。	② 側塊、排水枡等 (21.2.1)	(3) グレーチング <table><tr><th>材質</th><th>用途</th><th>適用荷重</th><th>メインバーピッチ</th><th>備考</th></tr><tr><td>図示</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	材質	用途	適用荷重	メインバーピッチ	備考	図示																																												
	種類	呼び名	仕上りの形状・工法等																																																													
複層仕上塗材	複層塗材E	凹凸吹 吹付																																																														
材質	用途	適用荷重	メインバーピッチ	備考																																																												
図示																																																																
5 マスチック塗料 塗り(表15.7.1)	<table><tr><th>工程</th><th>種別</th><th>塗料その他</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table>	工程	種別	塗料その他				11 自動ドア開閉装 置(16.9.3) (表16.9.4)	(1) 戸の開閉方法：【 ・ 引戸 ・ 開き戸 ・ 折戸】 (2) センサーの種類：	6 畳敷き (19.6.2)	(1) 畳の種別【 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種(種別：)】 (2) 畳表に使用する材料は沖縄県産とする。	3 基礎(21.2.2)	(4) 地盤の材料：【 】 基礎の厚さ及び種別：図示による。																																																			
工程	種別	塗料その他																																																														
6 せっこうプラス ター塗り (15.8.2)(15.8.3)	(1) 下塗り及び中塗りに用いるせっこうプラスター ・ 既調合フラスター(下塗り用) ・ 現場調合フラスター(下塗り用) (2) 上塗り： ・ 既調合フラスター(上塗り用) ・ しっくい塗り		⑫ シャッター (16.11.2) (16.12.2) (16.12.4)	(1) シャッターの種類：【○重量() ・ 軽量】 (2) 耐風圧強度： 図示 (3) 開閉機能：【 ・ 手動式 ○電動式】 (4) 重量シャッターの場合のシャッターケース： 【○設ける ・ 設けない】 (5) スラットの形式： 【 ・ インターロック型 ○オーバーラッピング型】 ※耐風フック付	⑦ せっこうボード、 その他ボード及 び合板張り (19.7.2) (19.7.3) (表19.7.5)	(1) せっこうボード 規格名称 種類の記号 厚さ 施工箇所 目地工法の種類 図示 (2) 合板の種類 <table><tr><th>合板の名称</th><th>施工箇所</th><th>その他の仕様</th></tr><tr><td></td><td></td><td>※図示(Aー)による。</td></tr></table> ※合板の木材処理(防虫・防蟻)については、本特記仕様書第 12章第3項及び第4項を適用する。 (3) 軽量鉄骨壁下地ボード遮音壁に用いる遮音シール材： 【 ・ 品質及び防火性能：【 】	合板の名称	施工箇所	その他の仕様			※図示(Aー)による。	④ 街きよ、緑石及 び側溝(21.3.1)	コンクリート緑石及び側溝 <table><tr><th>名称</th><th>規格名称</th><th>形状</th><th>寸法等</th><th>備考</th></tr><tr><td>図示</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	名称	規格名称	形状	寸法等	備考	図示																																												
合板の名称	施工箇所	その他の仕様																																																														
		※図示(Aー)による。																																																														
名称	規格名称	形状	寸法等	備考																																																												
図示																																																																
7 しっくい塗り (15.10.2)	(1) しっくい： ・ 現場調合材料 ・ 既調合材料()		13 オーバーヘッド ドア(16.13.2)	(1) 耐風圧性能の区分： (2) 開閉機能：【※バンス式 ・ チェーン式 ・ 電動式】 (3) 収納形式による区分：	8 壁紙張り (19.8.2)		22 舗装工 事	① 路床(22.2.2) (22.2.3)(22.2.5) (表22.2.1)	(1) 路床の種類等 <table><tr><th>層の種類</th><th>厚さ</th><th>盛土の材料</th><th>路床安定処理</th><th>試験</th></tr><tr><td>図示</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	層の種類	厚さ	盛土の材料	路床安定処理	試験	図示																																																	
層の種類	厚さ	盛土の材料	路床安定処理	試験																																																												
図示																																																																
8 ロックウール吹 付け(15.12.3)	仕上り厚さ：		14 ガラス (16.14.2) (16.14.4) (16.14.5)	(1) ガラスの種類及び厚さ等 <table><tr><th>ガラスの種類</th><th>厚さ等</th><th>備考</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> (2) ガラス留め材 <table><tr><th>建具の種類</th><th>材種</th></tr><tr><td></td><td></td></tr></table> (3) 熱線反射ガラスの映像調整： (4) ガラスブロックの材料及び工法 表面形状呼び寸法 厚さ 装用金属枠 補強材 色 金属製化粧ハ ※耐風フック付	ガラスの種類	厚さ等	備考				建具の種類	材種			9 断熱及び防露 (19.9.3)(19.9.4)	断熱材の種類及び厚さ：【 】	② 路盤 (22.2.2)(22.3.5)	(1) 路盤の厚さ：【 】 (2) 締固め度試験：【 】																																														
ガラスの種類	厚さ等	備考																																																														
建具の種類	材種																																																															
16 建具工 事	① 防火戸等 (16.1.3)(16.1.6)	(1) 防火戸の指定及び機構等は、図示による。 (2) 防犯建物部品の適用は、図示による。	17 カーテンウオー ル工事	(1) カーテンウォールの種類：【 ・ メタル ・ PC】 (2) 性能 <table><tr><th>耐風圧 性能</th><th>耐震 性</th><th>水密 性</th><th>気密性</th><th>耐火性</th><th>耐温度 性</th><th>遮音性</th><th>断熱性</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (3) 材料の種類 <table><tr><th>金属材料</th><th>シーリング材</th><th>耐火目地材</th><th>断熱材</th><th>構造ガasket</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (4) 先付け材料：【 ・ 建具枠 ・ ゴンドラ用ガイドレール ・ 】 仕様等については、図示による。 (5) メタルカーテンウォール製品の見え掛け部分の仕上がり： (6) PCカーテンウォールの仕上がり： (7) 構造ガasketを用いるガラスの取付け：	耐風圧 性能	耐震 性	水密 性	気密性	耐火性	耐温度 性	遮音性	断熱性									金属材料	シーリング材	耐火目地材	断熱材	構造ガasket						20 ユニ ット 及び その 他工 事	1 フリーアクセス フロア(20.2.2)	<table><tr><th>施工箇所</th><th>寸法</th><th>高さ</th><th>耐震性能</th><th>所定荷重</th><th>帯電防 止性能</th><th>漏えい抵 抗</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	施工箇所	寸法	高さ	耐震性能	所定荷重	帯電防 止性能	漏えい抵 抗								③ アスファルト舗 装 (22.4.2) (22.4.4) (22.4.5)	(1) 構成及び厚さ：【○図示による(Aー) ・ 】【 (2) 加熱アスファルト混合物等の種類： 【 ・ 密粒度アスファルト混合物(13) ・ 再粒度アスファルト混合物(13)】 (3) シールコートの適用：【 ・ 有り ・ 無し】 (4) 構成及び厚さ：【 ・ 図示による(Aー) ・ 】【															
耐風圧 性能	耐震 性	水密 性	気密性	耐火性	耐温度 性	遮音性	断熱性																																																									
金属材料	シーリング材	耐火目地材	断熱材	構造ガasket																																																												
施工箇所	寸法	高さ	耐震性能	所定荷重	帯電防 止性能	漏えい抵 抗																																																										
2 見本の製作等 (16.1.4)	(1) 建具見本の製作：【 ・ 行う ・ 行わない】 (2) 特殊な建具の仮組：【 ・ 実施する ・ 実施しない】		18 塗 装工 事	① 塗装の種類及び 保証 (18.1.7) (18.2.2) (表18.12.2)	(1) 塗装の種類及び保証 (2) 保証期間は、工事完成後【 5 】年間とする。	2 可動間仕切 (20.2.3)	<table><tr><th>施工箇所</th><th>構造形式</th><th>構成基材</th><th>遮音性</th><th>表面仕上げ</th><th>建具寸法等</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	施工箇所	構造形式	構成基材	遮音性	表面仕上げ	建具寸法等							④ 透水性アスフ ルト舗装 (22.7.2)	(1) 構成及び厚さ：【 ・ 図示による(Aー) ・ 】【 (2) 種類：【 ・ 加熱系() ・ 常温系()】 (3) 添加する着色骨材又は自然石 【 ・ 図示による(Aー) ・ 】【 (4) その他【 ・ 】【																																											
施工箇所	構造形式	構成基材	遮音性	表面仕上げ	建具寸法等																																																											
③ アルミニウム製 建具 (16.2.2) (16.2.4) (16.2.5) (表14.2.1) (表16.2.1)	(1) 建具の性能等 <table><tr><th>種別</th><th>耐風圧性</th><th>気密性</th><th>水密性</th><th>特見込み寸法</th><th>施工箇所</th></tr><tr><td>その他</td><td>S-7(3600)</td><td>A-4</td><td>W-5</td><td>図示</td><td>図示</td></tr><tr><td>C種</td><td>S-6(2800)</td><td>A-4</td><td>W-5</td><td>図示</td><td>図示</td></tr></table> (2) 特殊なドアセット等の適用及び等級 <table><tr><th>ドアセット等の種類</th><th>施工箇所</th><th>等級</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ 防音ドアセット ・ 断熱ドアセット ・ 耐震ドアセット</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (3) 外部に面する建具の表面処理の種別及び複合皮膜の種類 種別：B-1 複合皮膜の種類：【○A1 ・ A2】(JIS H 8602) (4) 結露水の処理方法： (5) 水切り及びびぜん板等の加工及び組立は、図示による。	種別	耐風圧性	気密性	水密性	特見込み寸法	施工箇所	その他	S-7(3600)	A-4	W-5	図示	図示	C種	S-6(2800)	A-4	W-5	図示	図示	ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考	・ 防音ドアセット ・ 断熱ドアセット ・ 耐震ドアセット					19 内 装工 事	1 ビニル床シート 等 (19.2.2) (19.2.3)	(1) ビニル床シートの材料及び工法 <table><tr><th>施工箇所</th><th>種類の記号</th><th>色柄</th><th>厚さ</th><th>熱溶接工法の適用</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>・ 有り ・ 無し ・ 有り ・ 無し</td></tr></table> (2) ビニル床タイル、ゴム床タイル <table><tr><th>施工箇所</th><th>種類(・形状)</th><th>厚さ等</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> (3) 特殊機能床材の適用： 【 ・ 帯電防止床シート又は床タイル ・ 視覚障害者用床タイル ・ 耐動荷重性床シート ・ 防滑性床シート又は床タイル】 <table><tr><th>施工箇所</th><th>種類(・形状)</th><th>厚さ等</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table>	施工箇所	種類の記号	色柄	厚さ	熱溶接工法の適用					・ 有り ・ 無し ・ 有り ・ 無し	施工箇所	種類(・形状)	厚さ等				施工箇所	種類(・形状)	厚さ等				21 排水工 事	1 排水管 (21.2.1)	<table><tr><th>材質</th><th>管の種類</th><th>呼び径</th><th>備考</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	材質	管の種類	呼び径	備考				
種別	耐風圧性	気密性	水密性	特見込み寸法	施工箇所																																																											
その他	S-7(3600)	A-4	W-5	図示	図示																																																											
C種	S-6(2800)	A-4	W-5	図示	図示																																																											
ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考																																																													
・ 防音ドアセット ・ 断熱ドアセット ・ 耐震ドアセット																																																																
施工箇所	種類の記号	色柄	厚さ	熱溶接工法の適用																																																												
				・ 有り ・ 無し ・ 有り ・ 無し																																																												
施工箇所	種類(・形状)	厚さ等																																																														
施工箇所	種類(・形状)	厚さ等																																																														
材質	管の種類	呼び径	備考																																																													
4 樹脂製建具 (16.3.2) (16.3.3) (16.3.4) (16.3.5) (表16.3.1) (表16.3.2) (表16.3.3)	(1) 建具の性能等 <table><tr><th>種別</th><th>耐風圧性</th><th>気密性</th><th>水密性</th><th>特見込み寸法</th><th>施工箇所</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (2) 特殊なドアセット等の適用及び等級 <table><tr><th>ドアセット等の種類</th><th>施工箇所</th><th>等級</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ 防音ドアセット ・ 断熱ドアセット</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (3) 表面色： (4) 水切り及びびぜん板等の加工及び組立は、図示による。 (5) ガラス： ※複層ガラス・単板ガラス ・ 三重ガラス ・ (6) 外部に面する建具の日射熱取得性の等級：【 ・ 】【	種別	耐風圧性	気密性	水密性	特見込み寸法	施工箇所							ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考	・ 防音ドアセット ・ 断熱ドアセット					2 カーベット敷き (19.3.2) (19.3.3) (表19.3.1) (表19.3.2)	(1) 帯電性の適用【 ・ 有り ・ 無し】 (2) 見切り、押さえ金物の材質、種類及び形状は図示による。 エポキシ樹脂系塗床の仕上りの種類： <table><tr><th>施工箇所</th><th>工法</th><th>品名</th><th>備考(樹種、種別等)</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	施工箇所	工法	品名	備考(樹種、種別等)					② 側塊、排水枡等 (21.2.1)	(1) 側塊 <table><tr><th>形状</th><th>寸法</th><th>備考</th></tr><tr><td>図示</td><td></td><td></td></tr></table> (2) 排水枡 <table><tr><th>種類</th><th>適用荷重</th><th>備考</th></tr><tr><td>図示</td><td></td><td></td></tr></table>	形状	寸法	備考	図示			種類	適用荷重	備考	図示																				
種別	耐風圧性	気密性	水密性	特見込み寸法	施工箇所																																																											
ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考																																																													
・ 防音ドアセット ・ 断熱ドアセット																																																																
施工箇所	工法	品名	備考(樹種、種別等)																																																													
形状	寸法	備考																																																														
図示																																																																
種類	適用荷重	備考																																																														
図示																																																																
⑤ 鋼製建具 (16.4.1)(16.4.2)	(1) 建具の性能等 <table><tr><th>施工箇所</th><th>耐風圧性</th><th>気密性</th><th>水密性</th><th>耐風圧性</th><th>備考(材料等)</th></tr><tr><td>図示</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (2) 特殊なドアセット等の適用及び等級 <table><tr><th>ドアセット等の種類</th><th>施工箇所</th><th>等級</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ 簡易気密型ドアセット</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (3) 鋼板の種類：【 ・ JIS G 3302 ・ JIS G 3317】 (4) 重量がある扉等 ・ 24 その他 1重量がある扉等 による。	施工箇所	耐風圧性	気密性	水密性	耐風圧性	備考(材料等)	図示						ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考	・ 簡易気密型ドアセット					3 合成樹脂塗床 (19.4.3)		③ 側塊、排水枡等 (21.2.1)	(1) 側塊 <table><tr><th>形状</th><th>寸法</th><th>備考</th></tr><tr><td>図示</td><td></td><td></td></tr></table> (2) 排水枡 <table><tr><th>種類</th><th>適用荷重</th><th>備考</th></tr><tr><td>図示</td><td></td><td></td></tr></table>	形状	寸法	備考	図示			種類	適用荷重	備考	図示																												
施工箇所	耐風圧性	気密性	水密性	耐風圧性	備考(材料等)																																																											
図示																																																																
ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考																																																													
・ 簡易気密型ドアセット																																																																
形状	寸法	備考																																																														
図示																																																																
種類	適用荷重	備考																																																														
図示																																																																
6 鋼製軽量建具 (16.5.2) (16.5.3) (表16.2.1)	(1) 建具の性能等 <table><tr><th>種別</th><th>耐風圧性</th><th>気密性</th><th>水密性</th><th>特見込み寸法</th><th>施工箇所</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (2) 特殊なドアセット等の適用及び等級 <table><tr><th>ドアセット等の種類</th><th>施工箇所</th><th>等級</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ 簡易気密型ドアセット</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (3) ビニル被覆鋼板：【 ・ 使用する ・ 使用しない】 (4) カラー鋼板の適用：【 ・ 使用する ・ 使用しない】	種別	耐風圧性	気密性	水密性	特見込み寸法	施工箇所							ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考	・ 簡易気密型ドアセット					4 フローリング張り (19.5.2)(19.5.3)		24 その他	1 重量がある扉等 ・ 図示による(・(Aー) ・) ・ 施工図及び施工計画書に工場製作要領書・工事現場施工要領 書を含むの記載事項は、標準仕様書16章建具工事に加え、標 準仕様書7章鉄骨工事に準じることとし、扉の取り付け方法、溶 接、塗装計画、ボルト等接合作業手順等を考慮しながら品質計 画を作成する。施工図及び施工計画書を工事の施工に先立ち 作成し、監督員に提出し承諾を得るものとする。																																						
種別	耐風圧性	気密性	水密性	特見込み寸法	施工箇所																																																											
ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考																																																													
・ 簡易気密型ドアセット																																																																
7 ステンレス製建具 (16.6.2)(16.6.3)	(1) 建具の性能等 <table><tr><th>施工箇所</th><th>耐風圧性</th><th>気密性</th><th>水密性</th><th>耐風圧性</th><th>備考(材料等)</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (2) 表面仕上げ：【※HL ・ バイブレーション ・ 鏡面 ・ 】【	施工箇所	耐風圧性	気密性	水密性	耐風圧性	備考(材料等)										工事名称 (名称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体・付)	工事年度 令和 8 年度	図面名称 那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面番 建築工事特記仕様書(その4)																																												
施工箇所	耐風圧性	気密性	水密性	耐風圧性	備考(材料等)																																																											
8 木製建具 (16.7.2) (16.7.4)	(1) かまど戸 かまどの樹種： ・ 鏡板の樹種： (2) ふすま 上張りの種類： ・ 縁の仕上がり： 建具用金物の材質、形状及び寸法 形式 金物の種類 見え掛け部の材質 備考 図示 (2) 建具用金物の取付け位置等は、図示による。				発注機関 沖縄県土木建築部施設建設課	縮 尺 —	図面番号 A-05	設計者 資格者氏名 新里 均																																																								
⑨ 建具用金物 (16.8.2)(16.8.3) (表16.8.1)	(1) 建具用金物の材質、形状及び寸法 形式 金物の種類 見え掛け部の材質 備考 図示 (2) 建具用金物の取付け位置等は、図示による。				管理建築士 設計 製 図 校 印	名 称 (株)アーキ5D	登録番号 一級建築士大臣登録第2185814	所 在 地 沖縄県宜野湾市普天間2-47-1																																																								

[illegible]

法第43条2項2号許可
※申請建物のルート

溝蓋3号線 (法43条第1項第1号)

2.0m幅

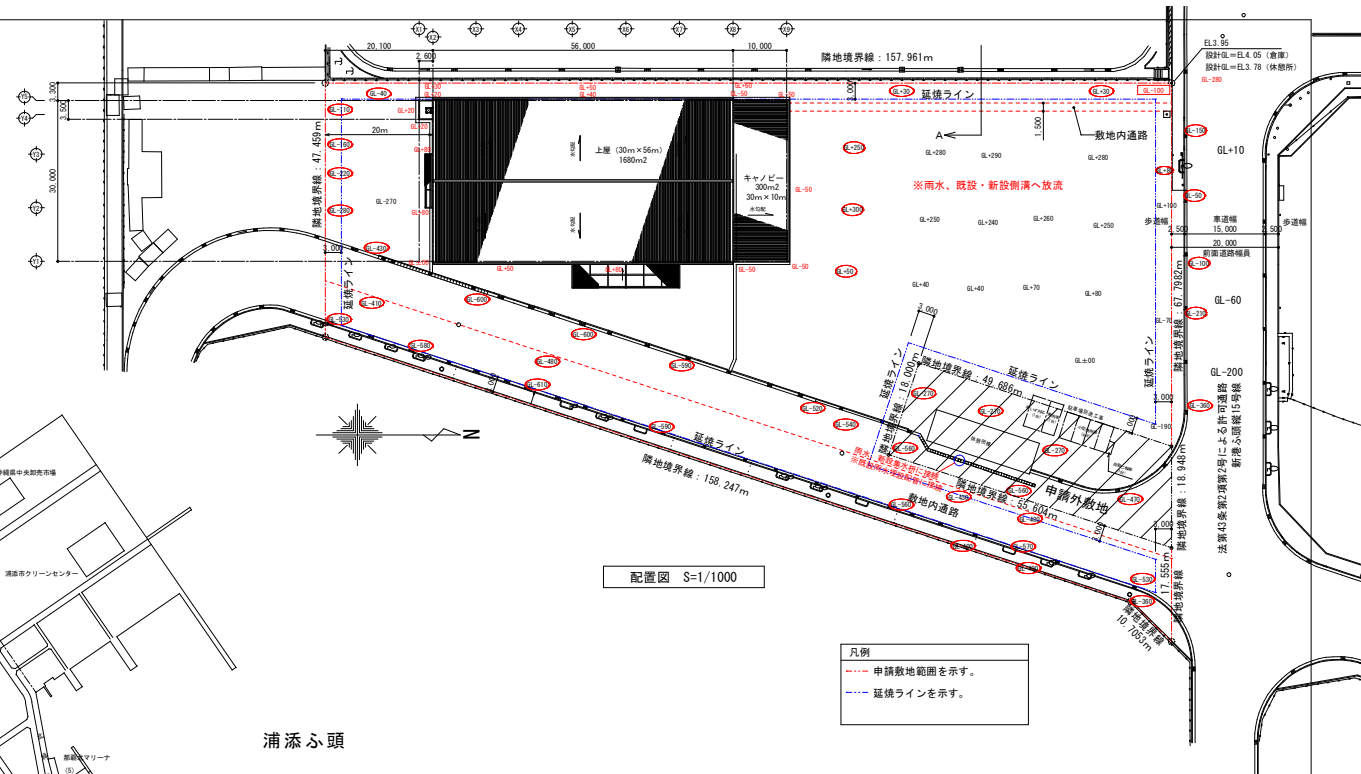
拡大図 S=1/4000

既設建物：不明（取り壊し予定）

物流棟：3階建て
事務所棟：7階建て
那覇港総合物流センター

新港心頭

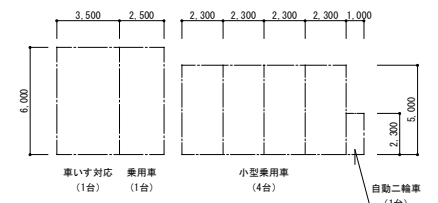
案内图兼臨港道路配置图 NO SCALE



浦添心頭

配置図 S=1/1000

凡例	
----	申請敷地範囲を示す。
----	延焼ラインを示す。

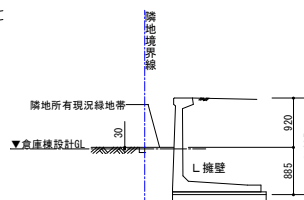


※駐車用の部分を明確に区分すること。
区分はロープにて行うこと。

駐車施設詳細図 S=1/300
(駐車施設別途工事)

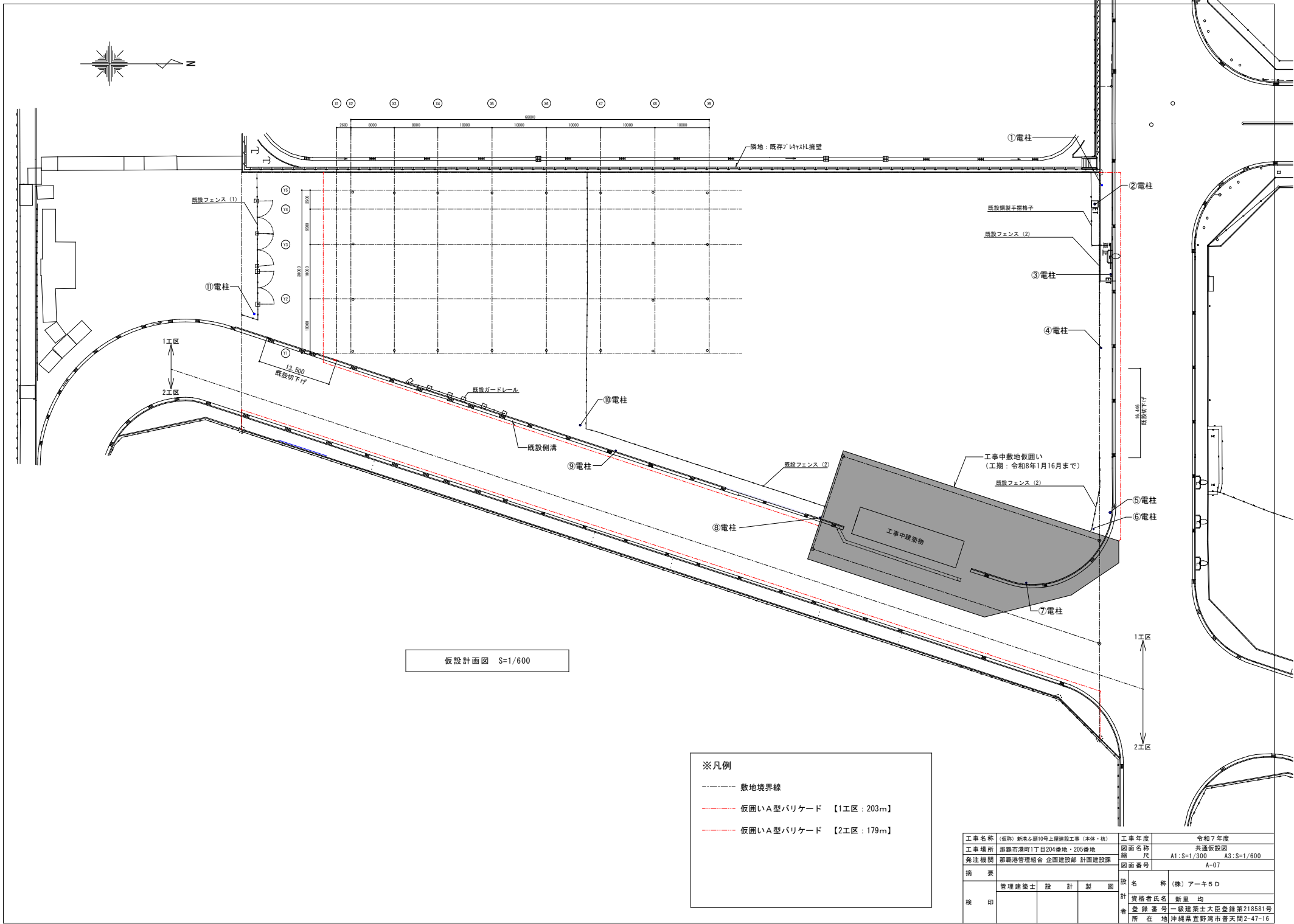
倉庫棟
・道路幅員：20.00m
・敷地と接している部分の道路の長さ：85.3532m

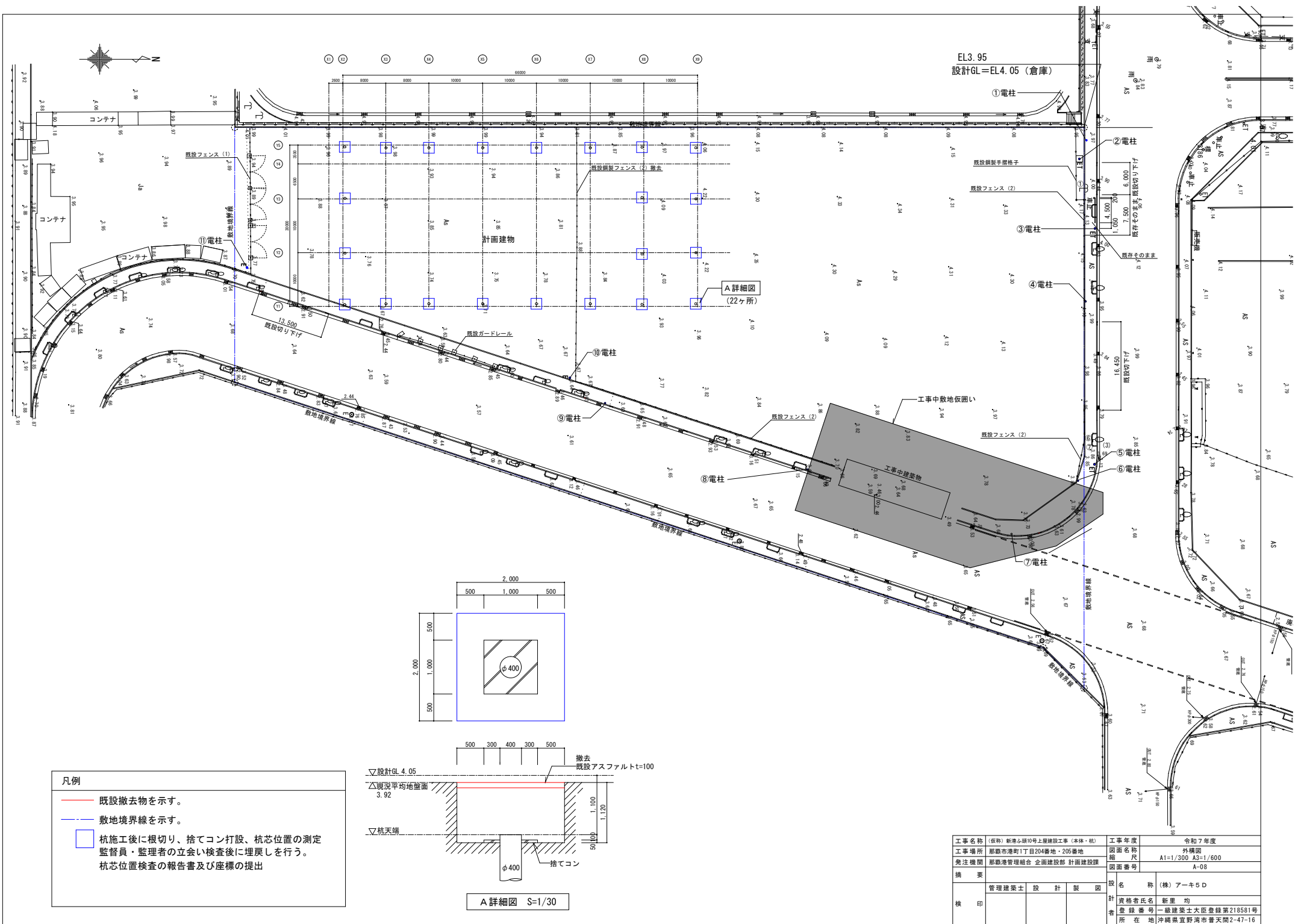
 申請外敷地を示す。



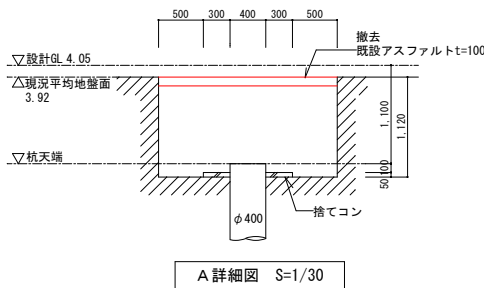
A 断面图 S=1/100

工事名称 (仮称) 新港ふ頭10号上屋建設工事 (本体・杭) 工事場所 那覇市港町1丁目20番地・205番地 発注機関 那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課		工事年度 令和7年度 縮尺 案内・配置図 A1: 1/501(150)(5000)(2000) A3: 1/100(300)(1000)(4000)	
構 要 管理建築士 設 計 製 図		図面番号 A-06 設 名 称 (株) アーキ5D 資格者氏名 新里 均 計 登 録 号 一級建築士大臣登録第218581号 所 在 地 沖縄県宜野湾市普天間2-47-16	
検 印			



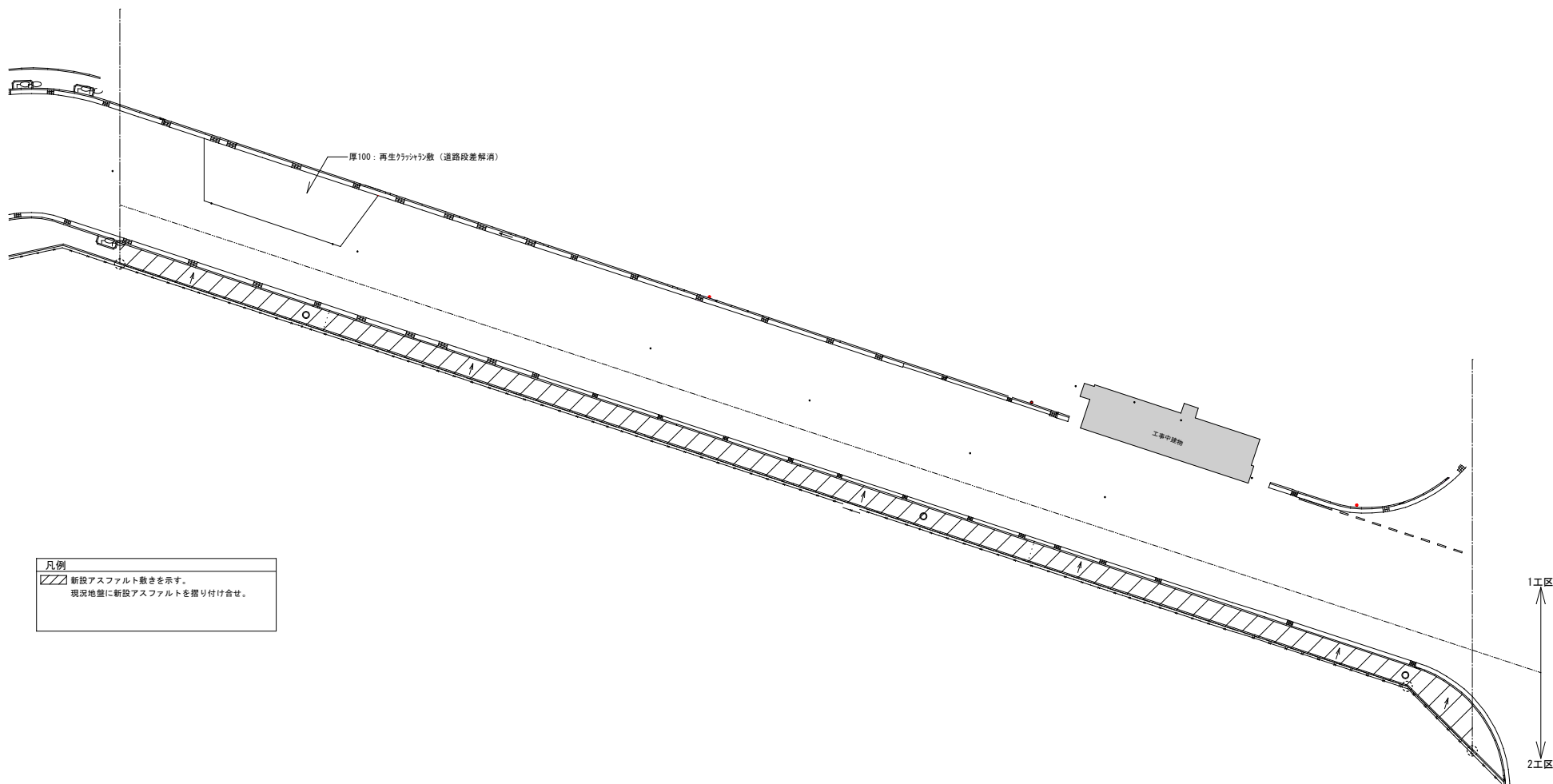


- 凡例
- 既設撤去物を示す。
 - 敷地境界線を示す。
 - 杭施工後に根切り、捨てコン打設、杭芯位置の測定監督員・監理者の立会い検査後に埋戻しを行う。杭芯位置検査の報告書及び座標の提出

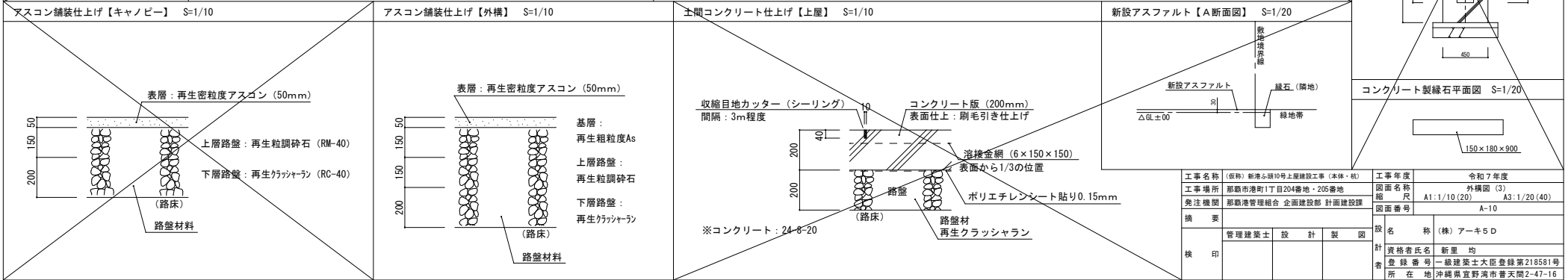
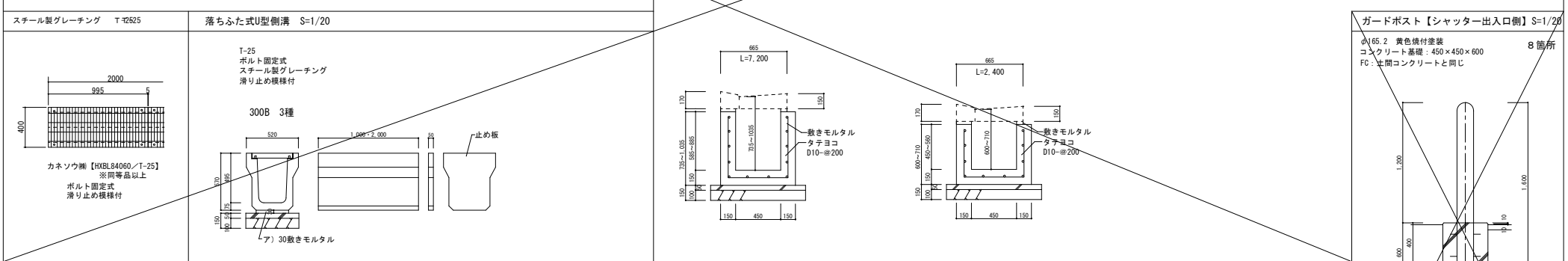
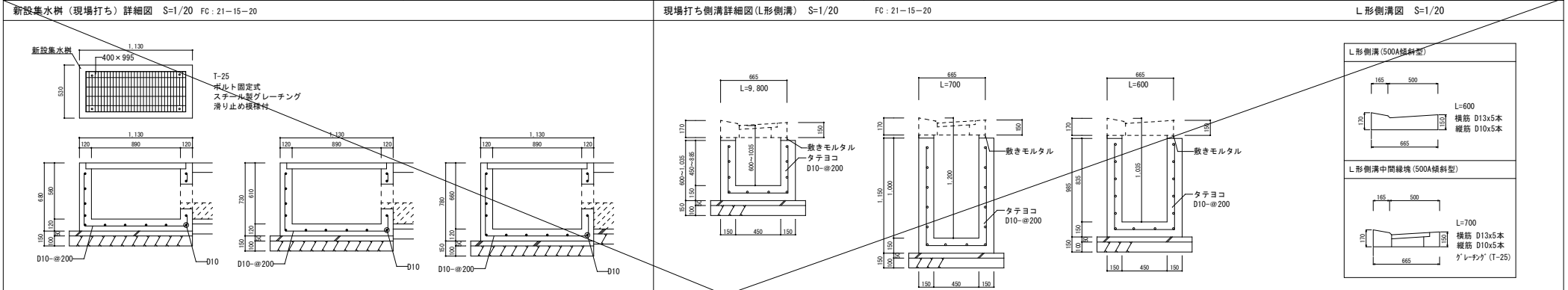
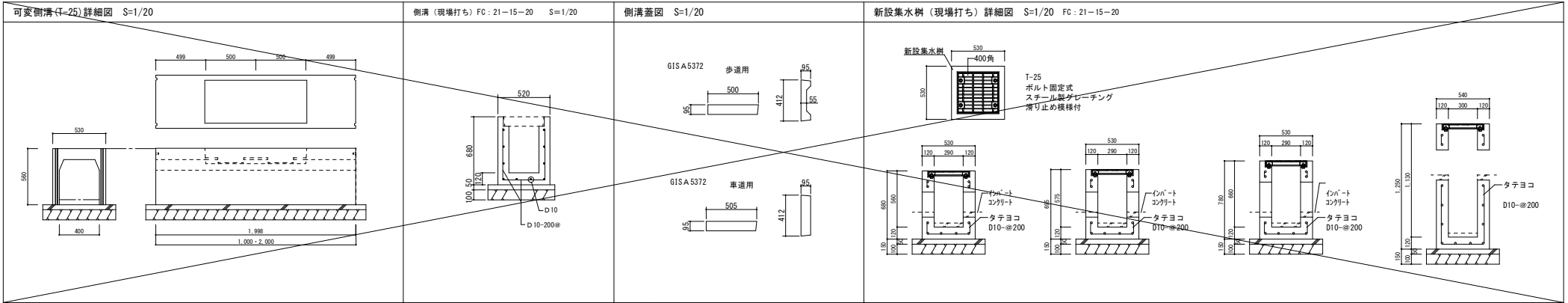


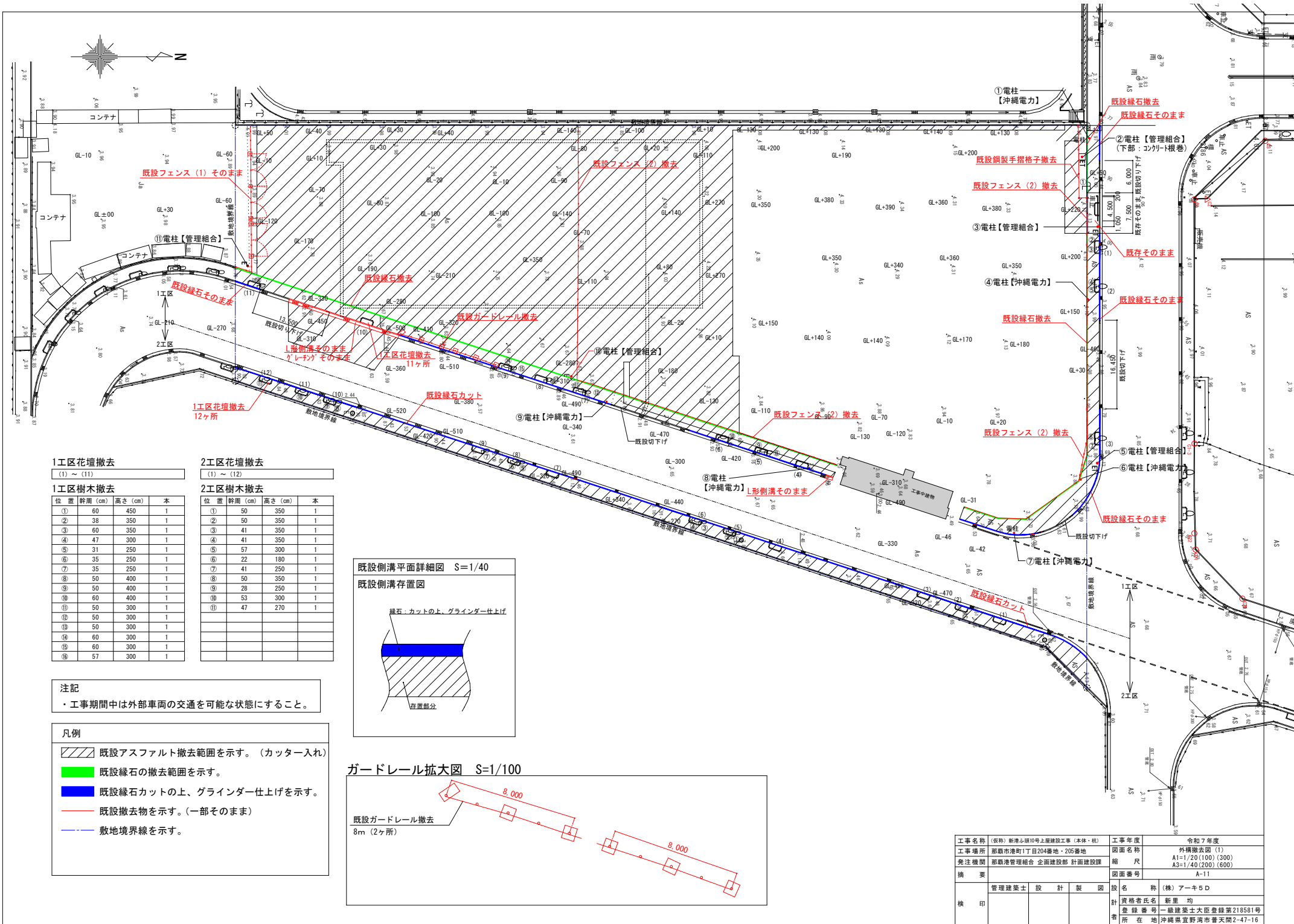
A 詳細図 S=1/30

工事名称	(保称) 新港心路10号上層建設工事 (本体・杭)			令和7年度	
	工事場所			図面名称	外構図
	発注機関			尺	A1=1/300 A3=1/600
	摘要			図面番号	A-08
検印	管理建築士	設	計	図	設計者
					資格者氏名
					新里 均
					登録番号
					一級建築士大臣登録第218581号
					所在地
					沖縄県宜野湾市普天間2-47-16



工事名称	〔保称〕新港6号10号上層建設工事（本体・杭）			工事年度	令和7年度	
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地			図面名称	外構図（2）	
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課			縮尺	A1=1/250 A3=1/500	
摘要				図面番号	A-09	
検印	管理建築士	設計	製図	設計者	新里 均	
				資格者氏名	新里 均	
				登録番号	一級建築士大臣登録第218581号	
				所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16	





1区花壇撤去

(1) ~ (11)

1区樹木撤去

位置	幹周 (cm)	高さ (cm)	本
①	60	450	1
②	38	350	1
③	60	350	1
④	47	300	1
⑤	31	250	1
⑥	35	250	1
⑦	35	250	1
⑧	50	400	1
⑨	50	400	1
⑩	60	400	1
⑪	50	300	1
⑫	50	300	1
⑬	50	300	1
⑭	60	300	1
⑮	60	300	1
⑯	57	300	1

2区花壇撤去

(1) ~ (12)

2区樹木撤去

位置	幹周 (cm)	高さ (cm)	本
①	50	350	1
②	50	350	1
③	41	350	1
④	41	350	1
⑤	57	300	1
⑥	22	180	1
⑦	41	250	1
⑧	50	350	1
⑨	28	250	1
⑩	53	300	1
⑪	47	270	1

注記

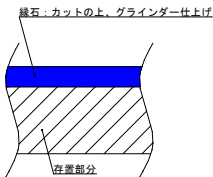
・工事期間中は外部車両の交通を可能な状態にすること。

凡例

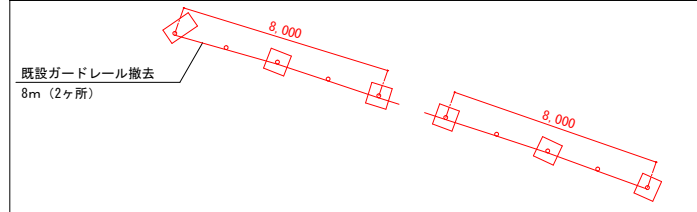
- 既設アスファルト撤去範囲を示す。(カッター入れ)
- 既設緑石の撤去範囲を示す。
- 既設緑石カットの上、グラインダー仕上げを示す。
- 既設撤去物を示す。(一部そのまま)
- 敷地境界線を示す。

既設側溝平面詳細図 S=1/40

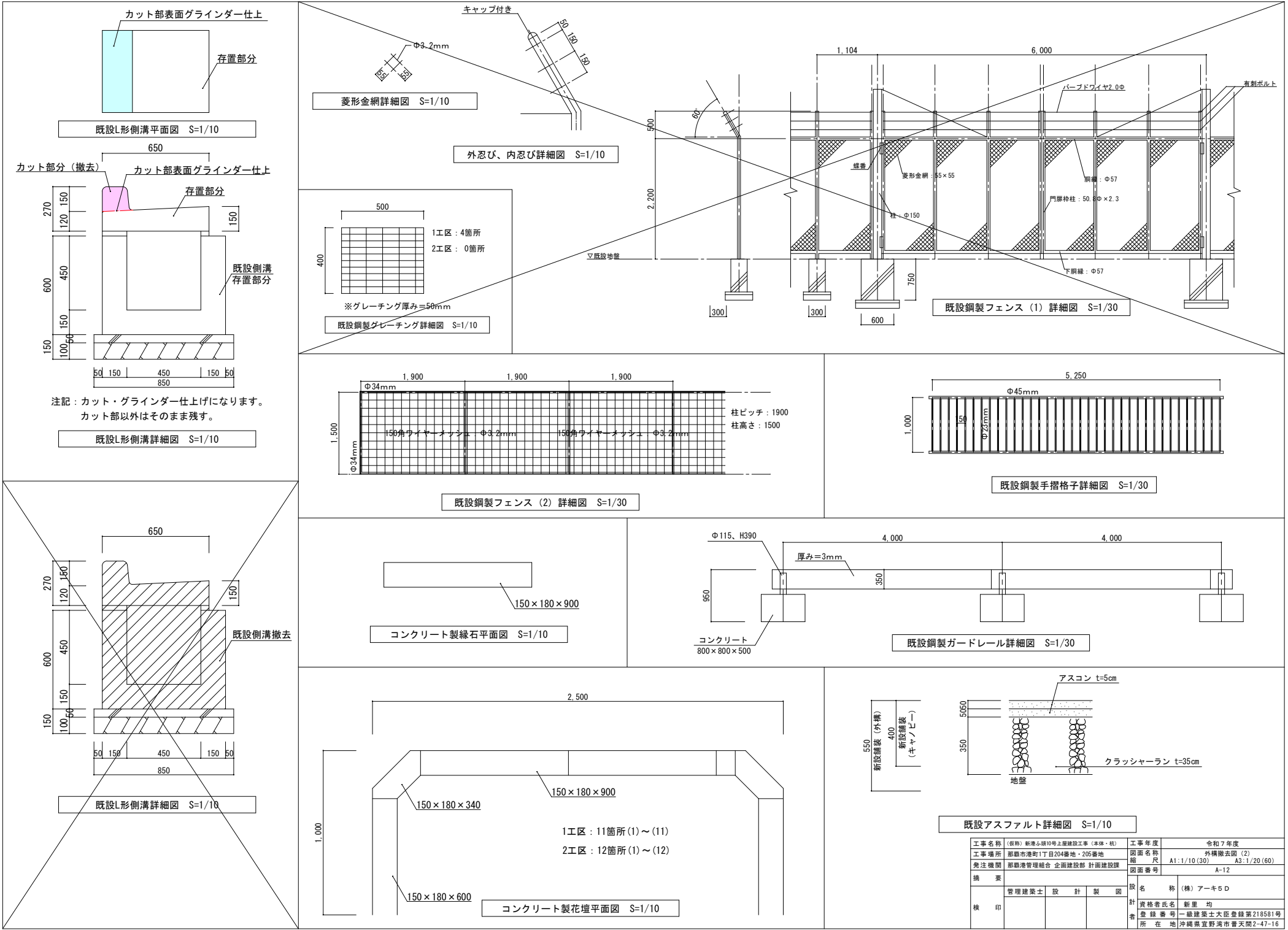
既設側溝存置図

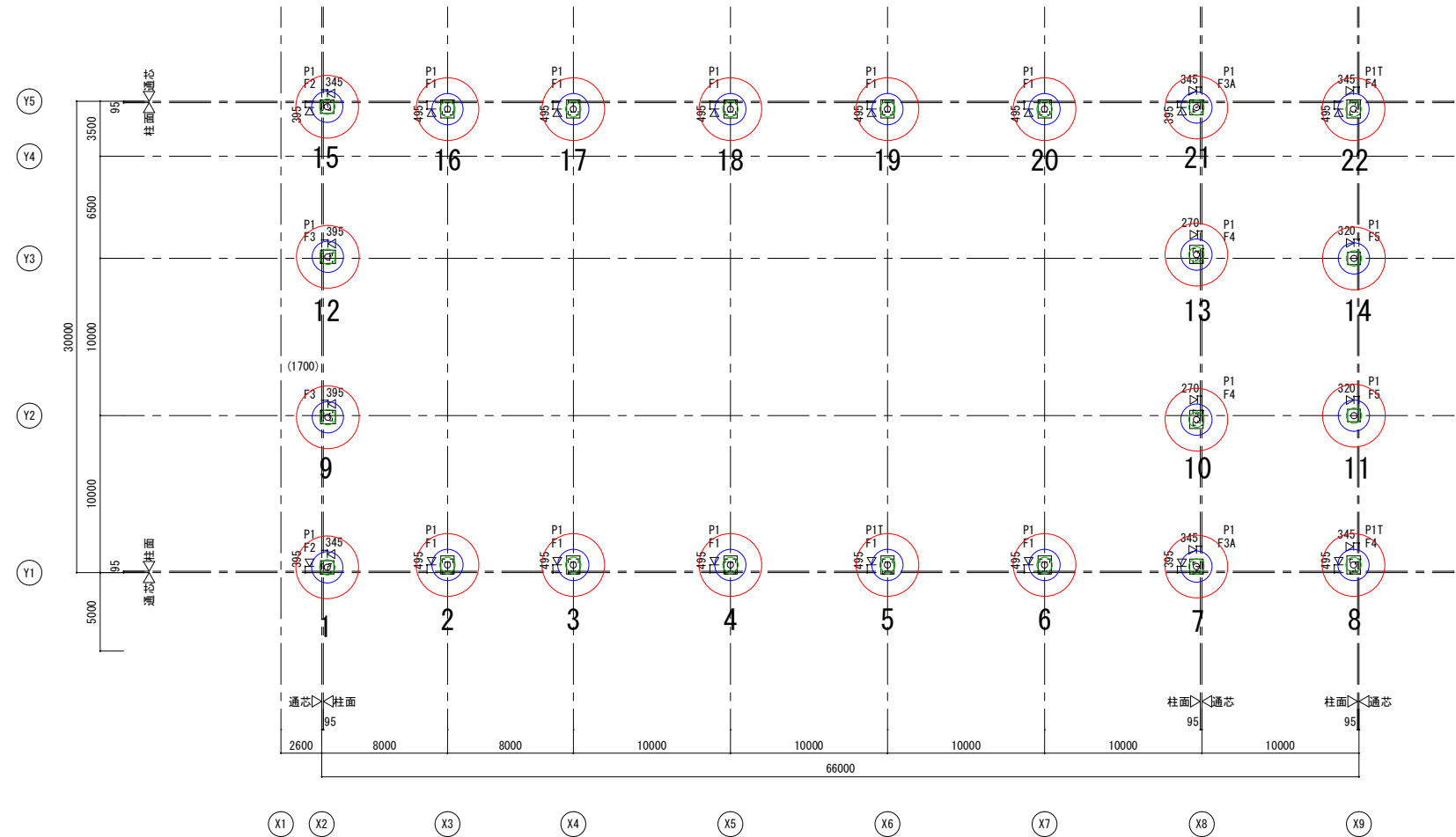


ガードレール拡大図 S=1/100



工事名称	(仮称) 新港南10号上層建設工事 (本体・杭)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	外構撤去図 (1)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1=1/20 (100) (300) A3=1/40 (200) (600)
摘要		図面番号	A-11
設計	管理建築士 設 計 製 図	設 名 称 (株)	アーキ5D
校 印		計 資格者氏名	新里 均
		登 録 番 号	一級建築士大臣登録第218581号
		所 在 地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16





基礎伏図

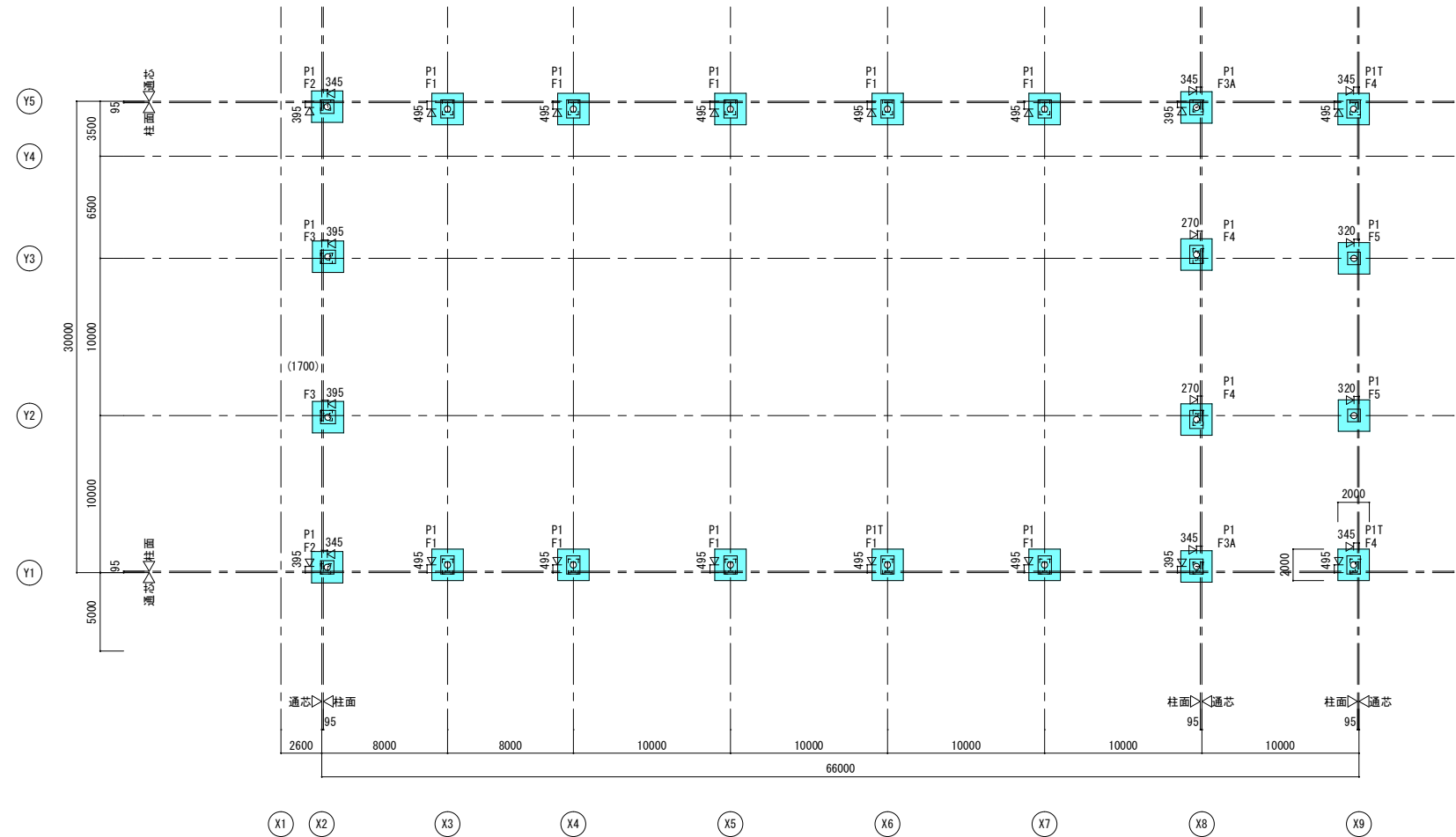
特記無き限り下記による。

- ▽は杭芯位置を示す。
- ▼は偏心距離を示す。
- 基礎底レベル = 設計GL-1200mm
- 杭頭レベル = 設計GL-1100mm

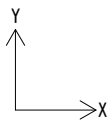
工法:Hyper-MEGA工法(標準型) 粘土質地盤			
符号		P1	P1T
杭長		33m	33m
径		400φ	400φ
上部	厚さ	65.0 mm	65.0 mm
	種類	PHC85-B	PHC85-B(T100)
	長さ	11.0m	11.0m
中部	厚さ	65.0 mm	65.0 mm
	種類	HF-PHC85-A	HF-PHC85-A(T100)
	長さ	11.0m	11.0m
下部	厚さ	65.0 mm	65.0 mm
	種類	HF-PHC85-A	HF-PHC85-A(T100)
	長さ	11.0m	11.0m

磁気探査数量総括表			
工種	単位	設計	備考
測点設定	点	22	
ボーリング長	m	452.76	
鉛直探査長	m	430.76	

工事名称	(名称) 新港ふ頭10号上層建設工事(本体・杭)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	磁気探査図(鉛直)
発注機関	那覇空港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1=1/150 A3=1/300
摘要		図面番号	A-13
検印	管理建築士	設計	製図
		設計者	新里 均
		資格者氏名	新里 均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16



基礎伏図

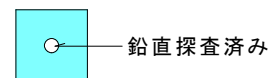


特記無き限り下記による。
・▽は杭芯位置を示す。
・▼は偏心距離を示す。
・基礎底レベル = 設計GL-1200mm
・杭頭レベル = 設計GL-1100mm

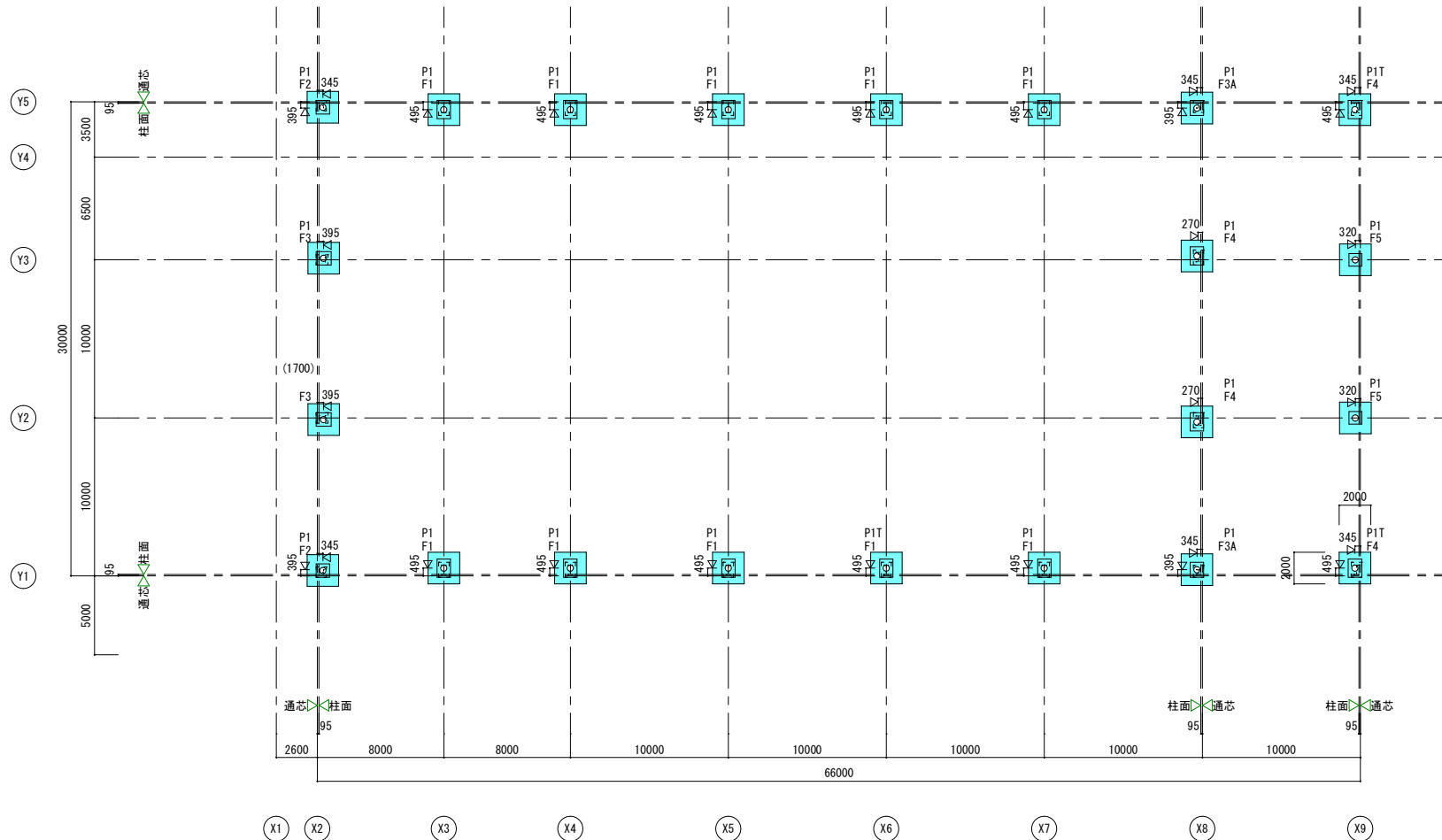
鉛直探査面積1箇所当たり (0.5 × 0.5 × 3.14 = 0.785m²)
杭22本 × 0.785 = 17.27m²

表層探査面積計 : 2.00 × 2.00 = 4.00m² × 22ヶ所 = 88.00m²

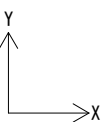
表層探査面積合計 : 88.00 - 17.27 = 70.73m²



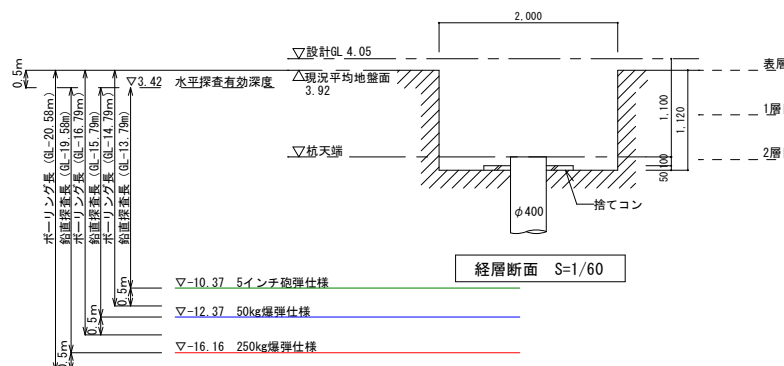
工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上層建設工事 (本体・杭)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	磁気探査図 (表層)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1=1/150 A3=1/300
		図面番号	A-14
摘要	設計 (株) アーキエス		
検印	管理建築士	設計	製図
		設計者	資格者氏名 新里 均
			登録番号 一級建築士大臣登録第218581号
			所在地 沖縄県宜野湾市普天間2-47-16



基礎伏図 S=1/300



- 特記無き限り下記による。
- ▽は杭芯位置を示す。
 - ▼は偏心距離を示す。
 - 基礎底レベル = 設計GL-1200mm
 - 杭頭レベル = 設計GL-1100mm



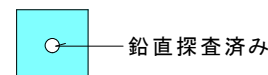
鉛直探査面積1箇所当たり (0.5 × 0.5 × 3.14 = 0.785m²)

杭22本 × 0.785 = 17.27m²

1層目経層探査面積計: 2.00 × 2.00 = 4.00m² × 22ヶ所 = 88.00m²

1層目経層探査面積合計: 88.00 - 17.27 = 70.73m²

2層目経層探査面積合計: 88.00 - 17.27 = 70.73m²



工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上層建設工事 (本体・杭)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	磁気探査図 (経層)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1=1/150 A3=1/300
摘要		図面番号	A-15
検印	管理建築士 設 計 製 図	設計者	新里 均
		資格者氏名	新里 均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

構造特記仕様書

２０２４年度版

５１ 一般事項

選定材料は◎印を適用し、○印が無い場合は※印を適用する。
○印が複数ある場合は、共に適用する。

1-1 使用材料は原則としてJIS規格適合品、JAS規格品、又は大臣認定品とする。

1-2 設計図書の優先順位は下記による。

1) 本特記仕様書
2) 設計図
3) 標準図

(◎ 鉄筋コンクリート構造造橋標準圖 ◎ 鉄骨工作標準圖)
 • 鉄筋教育コンクリート構造標準圖 • 高度次新幹線強施工法仕様書
 • 鉄筋コンクリート一種造橋標準図

4) 仕様書 (● 公共建築協会 ※日本建築家協会)
5) 日本建築学会標準仕様書 ・ JASSS 2018年 ・ JASSB 2018年

1-3 各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承認を得る。

1-4 構造関係材料及び各種試験成績表・検査報告書を作成し提出する。
第三者機関による検査・試験費用は工事費に (※含む ・ ※含まない)

1-5 設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承認を得る。

1-6 変置位置、径、及び箇所数は●：意匠図 ●：構造図 ※設け箇所にによる。

1-7 その他

５２ 構造計算ルート

2-1

方 向	構造計算ルート
X	●ルート1-1 ●ルート1-2 ●ルート2 ◎ルート3
Y	●ルート1-1 ●ルート1-2 ●ルート2 ◎ルート3

2-2 鉄筋の継手（定着）については設計図面もしくは標準図による

構造計算ルート別による主筋又は、耐力壁等鉄筋の継手の重なる長さ

※ 建築基準法施行令第73条第2項による仕様規定

- 日本建築学会 JASSS (2018)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説
- 日本建築学会 RC規程2018

XY両方向内ルート及び境界耐力計算の場合は、令第73条第2項の様式規定によらずJASSS (2018)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC規程2018とすることができ。

５３ 仮設工事、土工事

3-1 山留め、横切り

3-2 増戻土上、盛土、残土処分

増戻土上 ※ 横切り土中の良土
盛土 ※ 横切り土中の良土
残土処分 ※ 場内地均し

● 搬入土 (埋戻土は30cm毎に転圧締固めを行うこと)
● 搬入土 (埋戻土は30cm毎に転圧締固めを行うこと)
※ 増外掘出処分 (※ 自由 ・ 指定場所)

５４ 地業工事

4-1 基礎及びスラブ下地業 (単位:mm)

場 所	捨てコンクリート厚さ	注1)		厚 さ
		A : 砕石	B : 鉛弾石	
基 礎	独立 布	※ A ● 60 × 100	※ A ● B	※ 60 × 100 × 150 ●
	ベタ	※ A ● 60 × 100	※ A ● B	※ 60 × 100 × 150 ●
基 礎 梁	◎ A ● 60 × 100	◎ A ● B	※ 60 × 100 × 150 ●	◎ A ● B ● 60 × 100 × 150 ●
土間スラブ	※ A ● 60 × 100	※ A ● B	※ 60 × 100 × 150 ●	※ A ● B ● 60 × 100 × 150 ●
土間コンクリート	屋内	※ A ● 60 × 100	※ A ● B	※ 60 × 100 × 150 ●
	屋外	● A ● 60 × 100	※ A ● B	● A ● B ● 60 × 100 × 150 ●

注1) アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。
注2) 端部は100以上とする。



4-2 設計地耐力 kN/m² 長期 短期 kN/m² 終局 kN/m²

● 行う (箇所、長期設計耐力の3倍を確認する) ※ 行わない

4-3 地震防災

● 無筋コンクリート地業 ● 鋼管杭工法 ● ソイルセメント工法
● セメント系固化材充填 ● 圧密排水工法

[● 振動試験 (一軸圧縮試験) ● 行う (箇所) ※ 行わない]
[● 六価クロム溶出試験 ● 行う ※ 行わない]

4-4 脱炭素コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭

1) 杭種

● PHC杭 ● ○ A種 ● B種 ● C種 ●
● ST杭 ● A種 ● B種 ●
● SC杭 t mm ● A種 ● B種 ●
● PHC杭 ● I 種 ● II 種 ● III 種 ● IV 種
● 鋼杭 ● A種 ● B種 ● C種 ●
● 鋼管杭

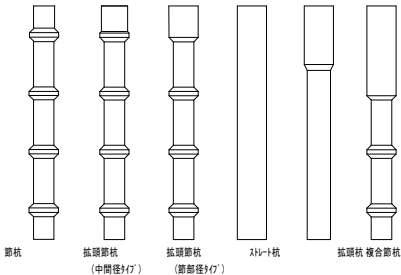
2) 工法

● 打撃工法 ● 油圧ハンマー ● ディーゼルハンマー
● 埋込込み法 ● フレージングセメントミルク注入工法
◎ フレージング拡大根拠の工法 (固定工法)
杭周固定法 ◎ あり ● なし
● 中掘り拡大根拠の工法 (固定工法)
● 筒状段取り根拠の工法 (固定工法)
● 筒状杭工法
先行削割 ● あり ● なし

Hyper-MEGA工法 特記仕様書

1. 一般事項
- 1）本工事に採用する工法は「Hyper-MEGA工法」（認定番号：TACP-0527号、TACP-0528号、TACP-0529号、TACP-0530号、TACP-0531号、TACP-0532号）とする。
- 2）工事着手前に、工事概要・工程・使用する杭の明細・使用機械等を明記した施工計画書を作成し、監督員の承認を得る。
- 3）工事施工者および管理者は、日本コンクリート工業㈱・ジャパンパイル㈱もしくは日本コンクリート工業㈱・ジャパンパイル㈱が承認した施工会社とする。ただし、後者の場合でも地盤の許容支持力については、日本コンクリート工業㈱・ジャパンパイル㈱が責任を負う。

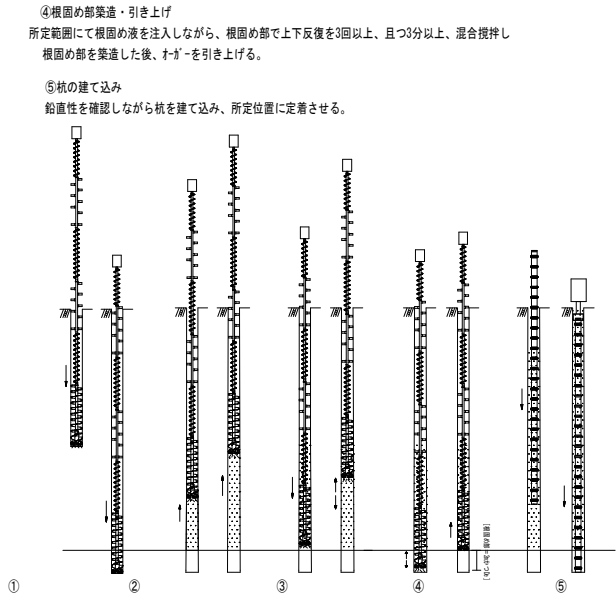
2. 使用杭
- 1）杭の構造
- 使用する杭は下記のものとする。
- ①平成13年国土交通省告示第1113号第2号、第3号、第4号、第5号及び第6号の何れかに基づきコンクリートの許容応力度が規定された既製コンクリート。
- ②建築基準法施工令第90条、平成12年国土交通省告示第2464号第1、第2に基づき鋼材の許容応力度が規定された鋼管。
- 2）杭の構成
- 節杭（拡張節杭、複合杭を含む）のみ、また拡張節杭を含む」とこの上方に継いで使用するスリート杭（拡張杭を含む）により基礎杭を構成する。なお、下杭には必ず節杭（拡張節杭を含む）を使用する。
- 3）杭径
- ①節杭（拡張節杭を含む）の径は、以下のものとする。
- 節部径 φ1200～φ450
- 軸部径 φ1000～φ300
- ②スリート杭（拡張杭を含む）の径は、以下のものとする。
- 杭径 φ298.4～φ1200
- 4）杭姿図
- 使用する杭の姿図の例を示す。



- 5）最大施工深さ
- 最大施工深さは、先端地盤が砂質地盤の場合は杭施工地盤面～68.0m、先端地盤が礫質地盤の場合は施工地盤面～68.0m、先端地盤が粘土質地盤の場合は杭施工地盤面～60.0mとする。

3. 試験杭
- 1）試験杭の位置および数量は、地盤調査・敷地状況・建築物の平面計画等を考慮し、設計者・監督員と協議して決定する。
- 2）試験杭は、本工事に先立ち、設計・施工計画の妥当性を確認するために実施する。
- 3）試験杭は、本工事と同一寸法の杭を用いることを原則とし、施工性能、地盤の崩壊、遡水の有無および高止まり量等の観察と確認を行い、本杭の施工の参考とする。

4. 施工方法
- 本工法の標準的な施工手順を下図に示し、その概要を以下に記述する。
- ①施工機据え付け・杭芯出し
- 掘削芯を確認しつつ、適宜、掘削液を送りながら地盤に適した速度で所定の位置まで掘削する。
- ②くい周面構築
- 先端部でわがを逆転させ、充填液を吐出しながら、所定の深度まで、引き上げる。
- ③再掘削・くい周面構築
- 正転に切り替えて、掘削した後、再度逆転にわがを上下反復して、充填液と掘削土砂とを混合攪拌し、逆転で所定深度に到達するまで且つ3回以上これを繰り返す。
- ④掘削め部築造・引き上げ
- 所定範囲にて掘削め液を注入しながら、掘削め部で上下反復を3回以上、且つ3分以上、混合攪拌し掘削め部を築造した後、わがを引き上げる。
- ⑤杭の建て込み
- 鉛直性を確認しながら杭を建て込み、所定位置に定着させる。



5. 掘削装置の形状および寸法

全体図

攪拌ロッド

スリットスクリー

連結シャフト（スクリーまたはロッド）

オーガーヘッド

（単位：mm）

6. 充填材の配合と管理
- 1）材料
- 1.セメントは、普通ポルトランドセメント、早強セメントおよび混合セメントを用いる。
- 2.練り混ぜに使用する水は、上水道水またはセメント硬化に影響のない水とする。
- 2）杭周充填液（W/C=100％・圧縮強さ：10N/mm²）
- 杭周充填液は、杭体と地盤とを一体化させる目的で注入する。
- 杭周充填液材料の基準量（対象土1mあたり）を下表に示す。
- | セメント種類 | 水セメント比 W/C (%) | セメント C (kg) | 水 W (%) | 注入量 (m ³) |
|--------------|----------------|-------------|---------|-----------------------|
| 普通ポルトランドセメント | 100 | 380 | 380 | 0.500 |
| 高炉セメントB種 | 100 | 377 | 377 | 0.500 |
- *普通ポルトランドセメント：比重3.16、高炉セメント：比重3.05
- 3）掘削め液
- 杭先端部に、先端支持力を確保するために拡大掘削め部の体積量を注入し、杭先端平均N値（N）と拡大比（ω）に応じて、水セメント比は下記を標準とする
- | 拡大比 | 水セメント比 | | |
|-------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| | ω≤20 | 20<ω≤40 | 40<ω |
| 1.0≤ω≤1.25 | 65% (22N/mm ²) | 65% (22N/mm ²) | 65% (22N/mm ²) |
| 1.25<ω≤1.75 | 65% (22N/mm ²) | 60% (25N/mm ²) | 60% (25N/mm ²) |
| 1.75<ω≤2.0 | 65% (22N/mm ²) | 60% (25N/mm ²) | 55% (30N/mm ²) |
- *（ ）内は、管理強度
- 4）強度の管理
- 管理試験は、管理液について下表により行う。
- | 杭の種別 | | 回数 |
|------|----------|------------------|
| 試験杭 | | 1本毎 |
| 本杭 | 継ぎ手のある場合 | 20本毎またはその端数につき1回 |
| | 継ぎ手のない場合 | 30本毎またはその端数につき1回 |
- 1.1回の試験の、供試体の数は杭周充填液および掘削め液を各3個とする。
- 2.供試体は、（社）土木学会「コンクリート標準示方書（規準編）」のブリージング率および影響率試験方法（体積方法）によるポリエチレン袋を用いて、グラウトプラントより採取し、直径50mm・高さ100mm程度の円柱形に仕上げる。
- 3.圧縮試験は、JIS A 1108（コンクリートの圧縮試験方法）による。
- 4.充填液の圧縮強さは、材齢28日として管理する。（上記3）掘削め液参照）

7. 施工記録
- 試験杭および本工事完了後、下記事項を記録した施工報告書を作成し、提出する。
1. 工事概要
 2. 実施工程表
 3. 使用杭の仕様
 4. 充填液の材料・配合・使用量
 5. 施工機械の仕様
 6. 試験杭または試験掘削の記録
 7. 本杭施工記録
 8. その他必要事項
8. 安全・公害対策
- 1）安全対策
1. 災害の種類
- 杭の施工に伴って発生する労働災害には、杭打機の転倒・接触、挟まれ、巻き込まれ・衝突・飛来落下・墜落・感電等がある。
2. 災害の防止
- a) 作業指揮者および作業者は、予め定めた手順に従って規律ある正しい作業を行い、安全活動には全面的・積極的に参加する。
- b) 各種機械の運転者は、使用する機械器具の使用前点検を行い、損傷・変形・機能不具合等があれば修理・交換等必要な措置を講じ、その記録を残す。
- c) 杭打機の組立・据え付け・解体は、予め定めた計画に基づき、作業指揮者の指揮のもとに行う。
- d) 現場内の作業地盤は平坦にし、軟弱地盤の場合は転倒防止のためにサンドマット・敷き鉄板・地盤改良等で補強を行う。
- e) 杭打機等機械器具の運転は専任の者にすることとし、資格を要する作業は必ず有資格者が行う。
- f) 鉄道・道路・高圧線・電灯線・通信線・建築物・地下埋設物等既存のものに近接して作業を行う場合は、元請業者と打ち合わせを行い、関係者の立ち会いを求める等して事故防止につとめる。
- g) 作業者または第3者の接触・挟まれ・転落落下をおこさないように、立入禁止措置または監視・誘導を充分に行う。
- h) 現場での作業開始前に、作業員全員による打ち合わせ・確認を行い、作業者の配置（役割分担）を定め、元請業者への届け出を行う。
- 2）公害対策
- 本工法の施工に伴って発生する可能性のある公害は、騒音・振動・粉塵・地盤沈下・地下水汚染・泥土や泥水の場外流出による汚濁・土砂の飛散等がある。これらが発生して、近隣環境や第3者に影響を及ぼすことのないよう留意して施工する。

工事名称	〔仮称〕新港ふ頭10号上層建設工事（本体・杭）	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	Hyper-MEGA工法 特記仕様書
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/****・A3:1/****
図面番号		図面番号	S-10
摘要		設計者	（株）アーキ5D
管理建築士	設計	製図	
検印			
設計者氏名	新里 均	資格番号	一級建築士大臣登録第218581号
所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16		

ボーリング柱状図

調 查 名	新陸心頭上減建零設計與格零託 (土質調查)
-------	-----------------------

ボーリングNo						
---------	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

$\frac{1}{2} - \frac{1}{3}$

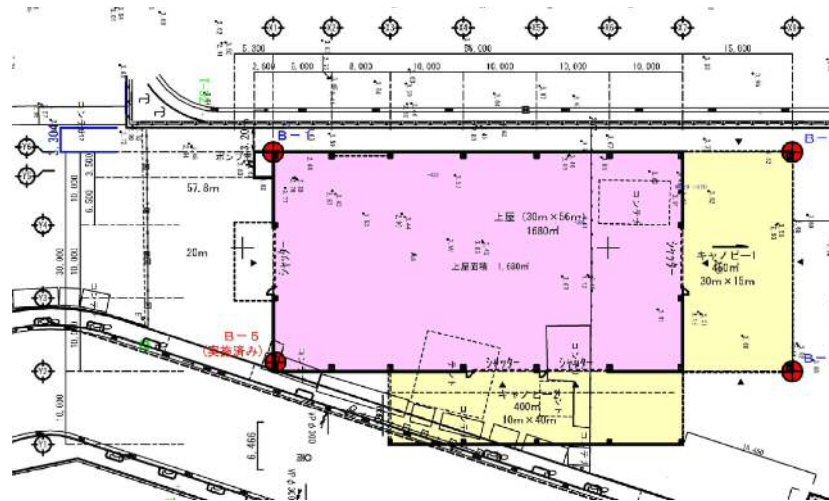
ホーリング名	R59-1	観音位置	新港小浜 10分上陸	北緯 26° 13' 38.191"
発注機関	五頭港管理組合			東経 127° 49' 21.090"
調査事業者	株式会社 西上り船務 株式会社 西上り船務 (090-813-3379) 佐伯隆樹			ホーリング 廣生堂 具志堅 水島
長口船名	3.90t	角 30° 60° 90° 120° 150° 180°	地盤 砂 砂 砂 砂 砂 砂	ナリ島漁夫装置
船頭名	76.36t	速 10 10 10 10 10 10	使用機材 鉄線 エンジン	ハンマー 海下作業 ポンプ
			エンジン TF-96	YS850

[illegible]

II	∇ 設計GL = 孔口標高+80mm
----	---------------------------

△杭頭レベル = 設計GL-1100mm

△杭先端レベル = 設計GL-34100mm



地盤調査位置図

設計GL = 4.05m(標高)

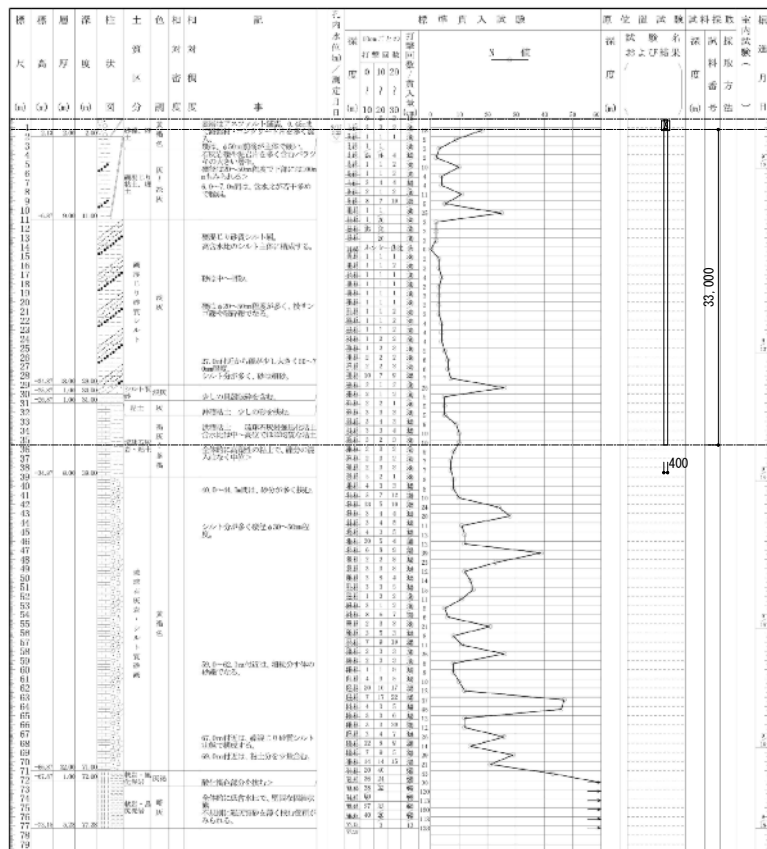
調査地点 B-1

工 事 名 稱	(俗稱) 新港十項10上層建設工事 (本棟、杭)	工 事 年 度	令和 7 年度
工 事 場 所	那覇市港町1丁目204番地、205番地	図 面 名 稱	地盤調査位置図・柱状図 (1)
発 注 機 関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	図 面 番 号	A1:1/*** A3:1/***
構 要			S-11
検 印	管理建築士 設 計 製 図	設 名 称	(株) A-キ 5 D
		計 資格者氏名	新里 均
		者 登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		者 所在地	沖縄県宮古郡玉川町2-47-16

一級建築士事務所 東京都知事登録 第63438号 株式会社U'plan
一級建築士大臣登録第350502号 構造設計一級建築士第10339号 尾崎 光

ボーリング柱状図

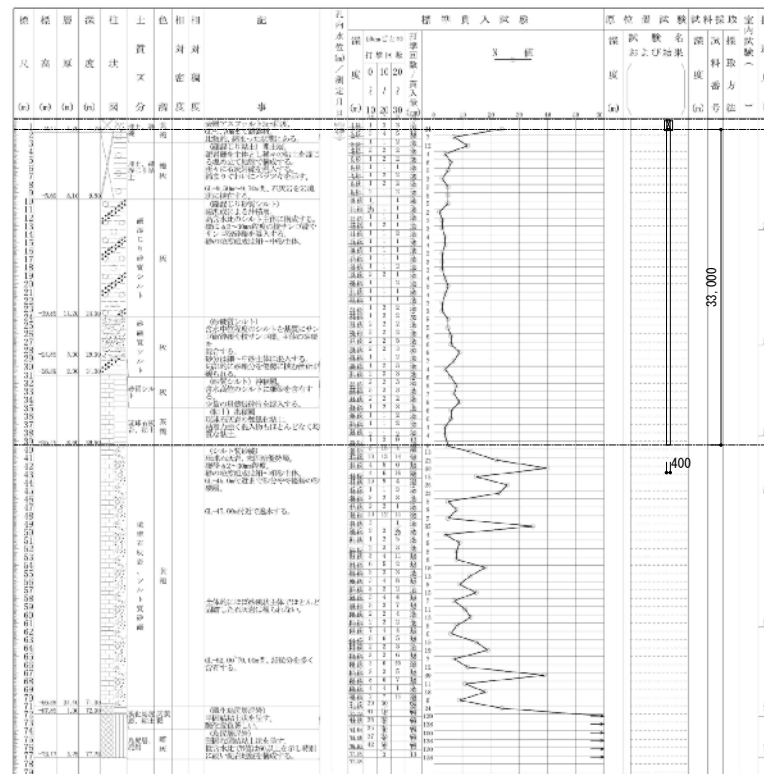
調 査 名						新橋上国土地建設設計業務委託(土質調査)							ボーリングNo								
事業・工事名														シートNo							
新・リソグモ		B5-B-2		調査位置		新橋上国 16号上道															
発注機関		那覇港管轄組合				調査期間				令和 5年 9月 12日 ~				令和 5年 9月 18日 末				北緯		25° 14' 30.498"	
調査事業者		株式会社 山本工務所 TEL:(93)-338-5555		主任技師		玉城 貴		調査進人		宮原 彰行		調査者		デブ		経緯		122° 40' 23.093"			
孔口標高		72.2m		方		N 0° E		地盤状況		硬地盤		B-D-B		H-H		ハンマ		海下具品			
孔口標準長		72.2m		方位		N 0° E		調査結果		硬地盤		ボンプ		T-F-60		半日試験費		¥55,500			



調査地点 B-2

ボーリング柱状図

調 査 名										近海漁船上乗降品目計数業務委託（土曜西定船）										ボーイング%									
事業・工事名																				シー・No									
バーリング名										(10号上屋) 85B-5										調査件数				東 緯		25° 14' 30.487"			
発 注 機 関										漁港管理委員会										調査期間		令和 5年 3月 25日		～ 5年 10月 25日		北 緯		137° 40' 23.174"	
調査業者名										株式会社 近海漁業調査										調査機材		無人機		飛行機		ボーイング		737-800	
調査者名										近海漁業調査 佐藤 大輔 (58 537 3579)										土地技師		工 程		測量		測量		測量	
孔 口 標 高										6.13m										内 容		1. 漁港管理委員会		2. 漁港管理委員会		3. 漁港管理委員会		4. 漁港管理委員会	
調査経緯										27.25m										内 容		1. 漁港管理委員会		2. 漁港管理委員会		3. 漁港管理委員会		4. 漁港管理委員会	



調査地点 B-3

工事名称	(仮称)新港ふ頭第10号工塵施設工事(本体・杭)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204地番・205寄地	図面名称	地盤調査位置図・柱状図(2)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	図面単位	A1:1/**** A2:1/****
概要		図面番号	S-12
検印	構 造 管理建築士 設 計 製 図	設 名 称	(株)アーキ5D
		資格者氏名	新里 功
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県首里郡読水町美天間2-47-16

ボーリング柱状図

調查名 新港・明上風連替設計業務委託 (R4)

ボーリングNo

事業、工事名

2-176

ホーリング名	(10号上層) R4-B-5	煙台位置	羽張新築水廻り地区				北 緯
発注機関	群馬県庁建設組合			調査期間	令和3年 月 日 ～ 年月 日 土 曜		
調査業者名	株式会社 南山土木工 主任技術 古田 恵孝			調査者	木城 隆 月 永 藤井 幸治		
孔口標高	3.66	湧 上 昇 量	230	地盤電阻率	使用電圧		
孔内径	76.2mm	層 厚	100	傾 斜	傾 斜		

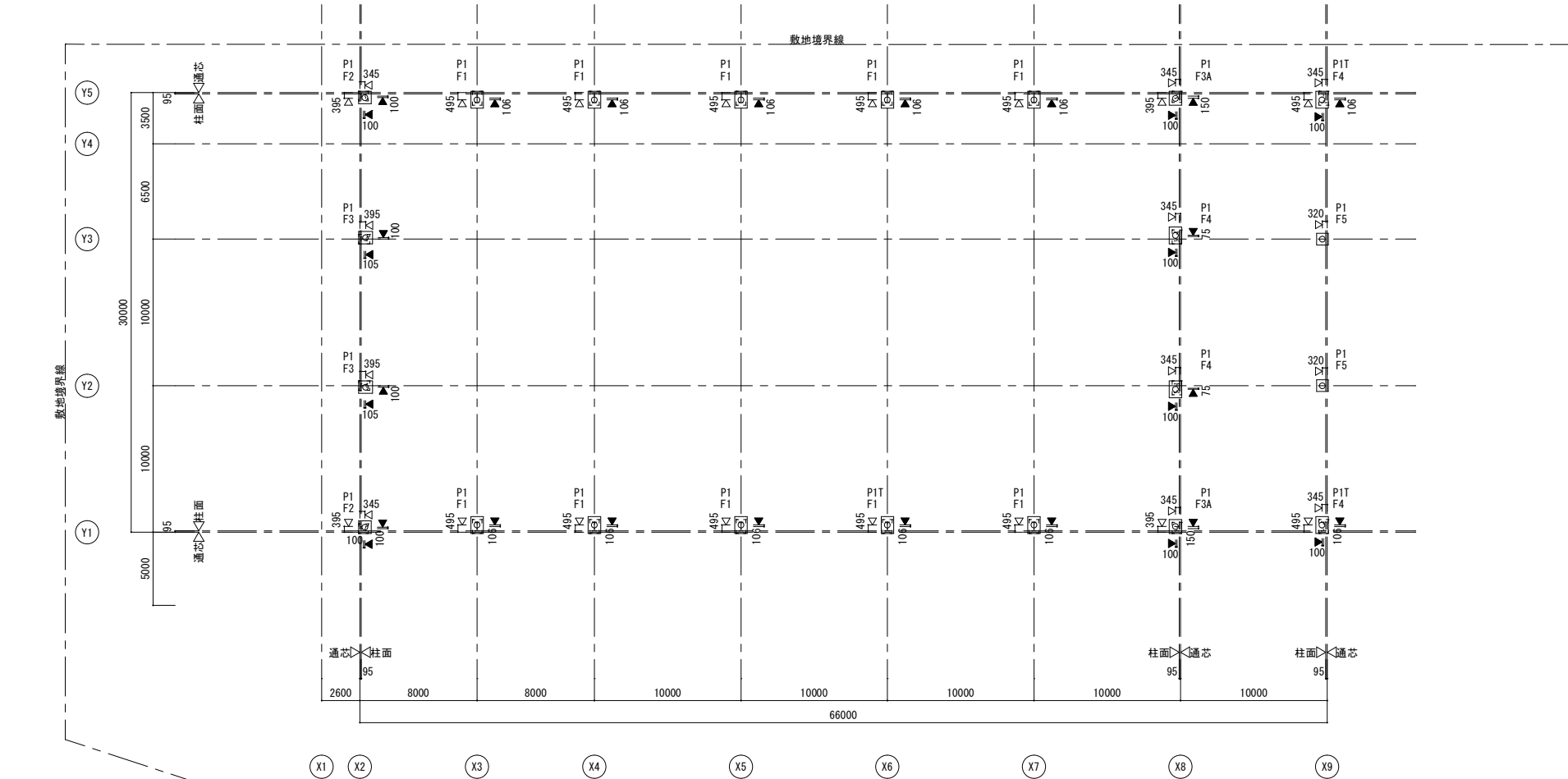
[illegible]

▽設計GL = 孔口標高+390mm

 Δ 抗頭レベル = 設計GL-1100mm
$$\Delta \text{杭先端レベル} = \text{設計GL} - 34100\text{mm}$$

調査地点 B-5

工程名稱	(名稱) 新嘉坡金禧10年上屋建設工程 (本體、林)	工程年數	全年 7 個月	
工事地點	新嘉坡市港門 J1 門 204 地、205 地	圖面名稱	地盤調查在圖面、柱狀圖 (3)	
注意範圍	新嘉坡管理組合 全面建設部 平面建設圖	圖面尺寸	A1:1/**** A3:1/****	
摘要	圖面番書		S-13	
核印	管理建築士 (設 計 製 圖)		設 計 者 氏 名	(株) 一 井 K 5 D
			監 督 者 氏 名	新 里 均
			施 工 者 氏 名	新 里 均
			監 督 者 氏 名	新 嘉 坡 大 街 新 嘉 坡 218581 街
			施 工 者 氏 名	沖 繩 縣 警 務 長 官 署 警 署 247-16



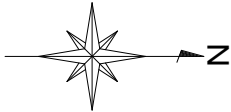
杭伏図

Hyper-MEGA工法(標準型)粘土質地盤

大臣認定番号 TACP-0529またはTACP-0532

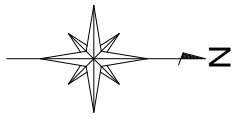
符号		P1	P1T
杭長		33m	33m
径		上部(φ400)中下部(φ4055)	上部(φ400)中下部(φ4055)
上部	厚さ	65.0 mm	65.0 mm
	種類	PHC85-B	PHC85-B(T100)
	長さ	11.0m	11.0m
中部	厚さ	65.0 mm	65.0 mm
	種類	節杭-PHC85-A	節杭-PHC85-A(T100)
	長さ	11.0m	11.0m
下部	厚さ	65.0 mm	65.0 mm
	種類	節杭-PHC85-A	節杭-PHC85-A(T100)
	長さ	11.0m	11.0m
長期支持力(kN)		620	620
短期支持力(kN)		1240	1240

- 特記無き限り下記による。
- ▽は杭芯位置を示す。
 - ▼は樫心距離を示す。
 - 基礎底レベル = 設計GL-1200mm
 - 杭頭レベル = 設計GL-1100mm
 - 杭芯位置の施工報告書を提出すること
 - 杭芯の施工精度 水平方向のずれはD/4 (杭径D)、かつ100mm以下とする。
 - 上記以上の杭芯ズレが生じた場合は監督員・監理者・設計者との協議の上、施工者の責任により構造安全検討書を提出する事。
 - 構造安全検討書による図面の変更等があれば変更図面を提出する事。
 - 構造安全検討書・変更図面を指定検査機関へ報告する事。
(上記にともなう費用等は全て施工者の負担とする。)
 - 杭頭補強筋 (バイルスタッド) は次期工事とする。

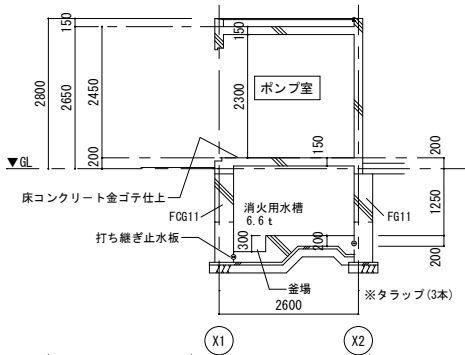


工事名称		(仮称) 新港ふ頭10号上層建設工事 (本体・杭)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	杭伏図	
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/150・A3:1/300	
編 要		図面番号	S-14	
検 印		設計	管理建築士	設計
		製 図		
		図 名	(株) アーキ5 D	
		資格者氏名	新里 均	
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号	
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16	

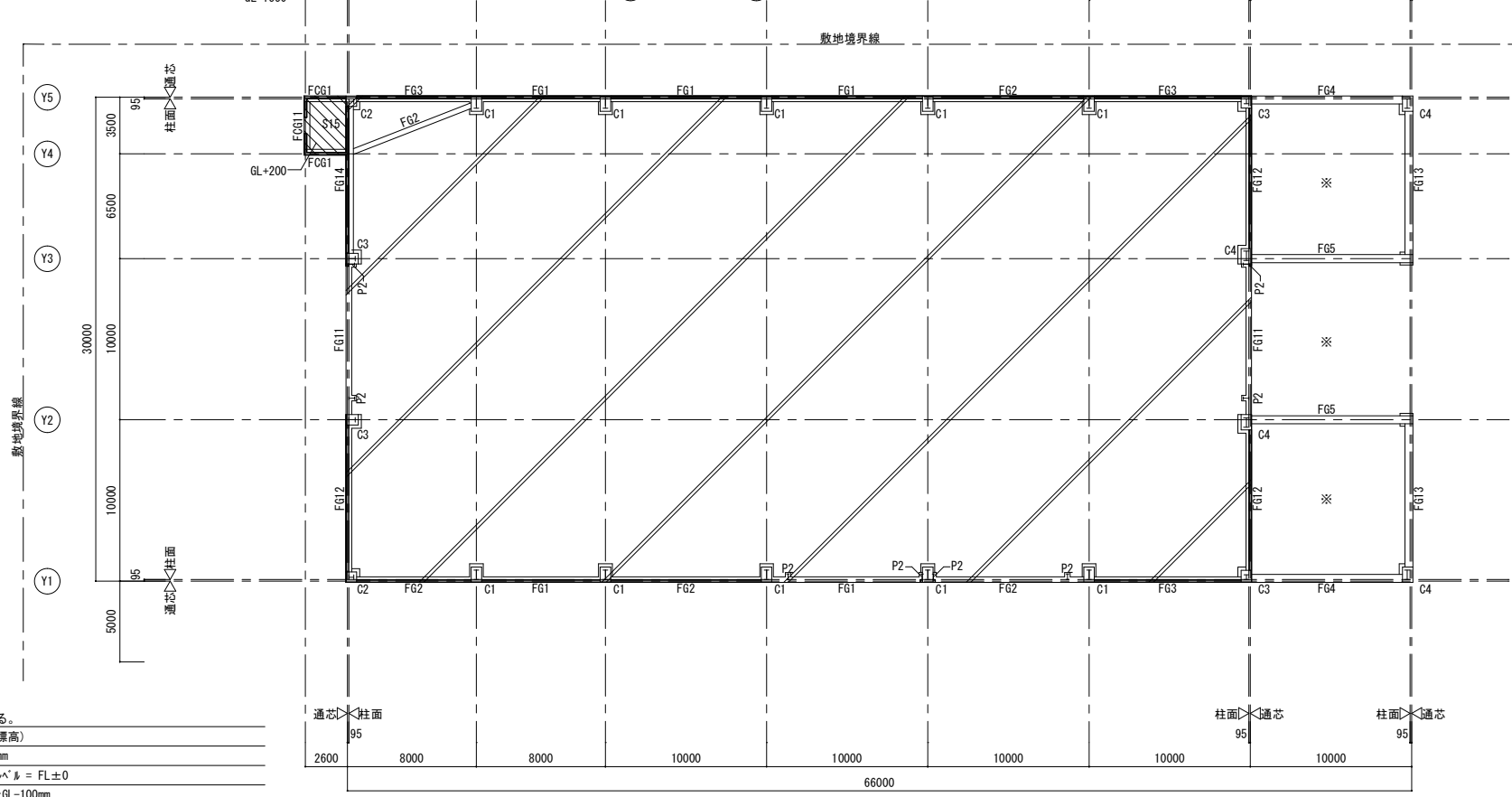
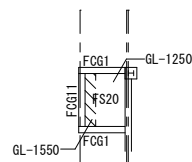
施工範囲：杭工事のみ



ポンプ室断面詳細 1/100



ポンプ室GL-1250



- 特記無き限り下記による。
- ・設計GL = 4.05m(標高)
 - ・1FL = 設計GL+100mm
 - ・土間コンクリートレベル = FL±0
 - ・基礎梁天端 = 設計GL-100mm
 - ・はRC立上りを示す。
 - ・※はアスファルト舗装天端を示す。
 - ・は土間コンクリート範囲を示す。
 - ・土間コンクリート下は充分な転圧締固めを行うこと。
 - ・梁符号()内数字は標準梁天端からのレベルを示す。

基礎伏図

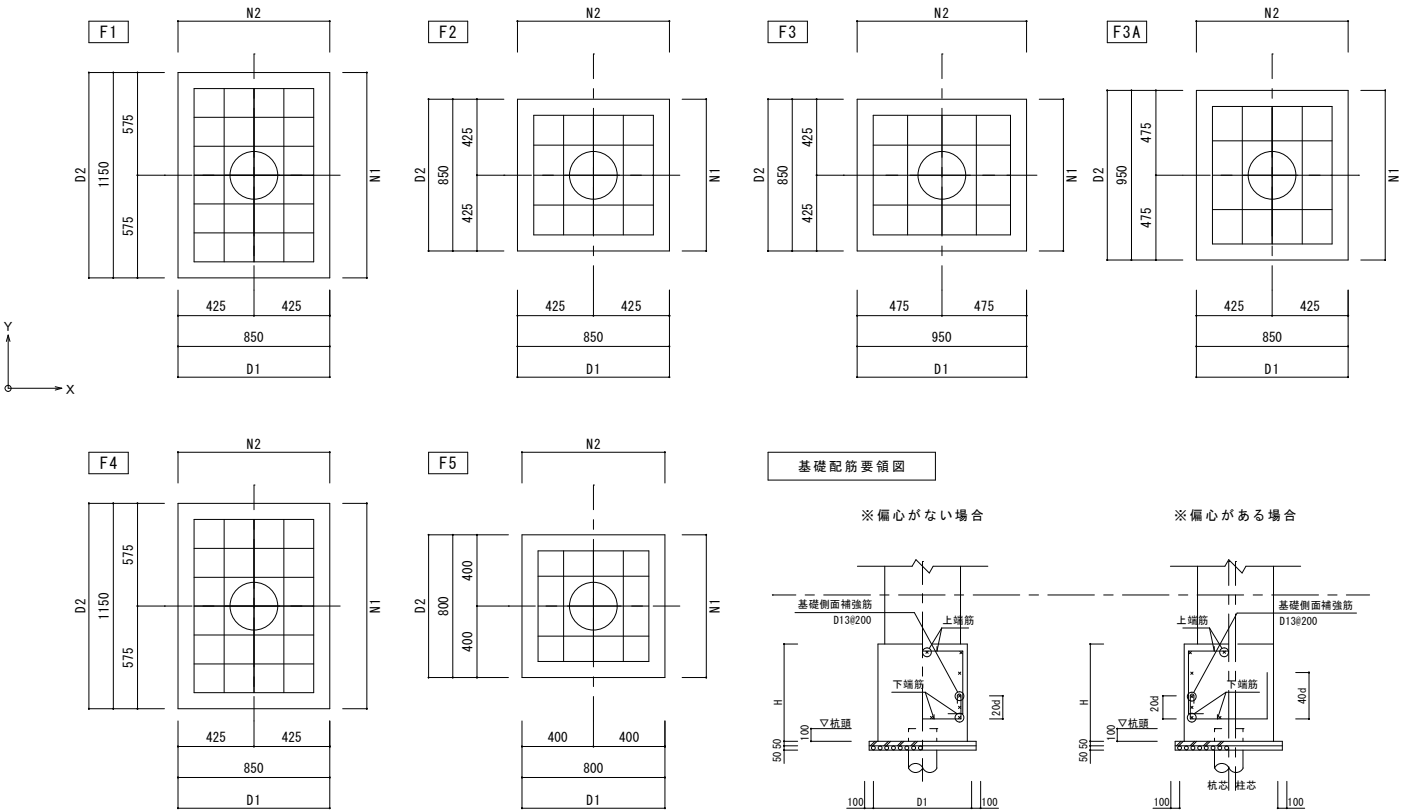
工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上層建設工事(本体・杭)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	基礎伏図
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	図面尺	A1:1/150・A3:1/300
		図面番号	S-15
概要	設計 管理建築士 設計 製 図		
検印	設計 資格者氏名 新里 均		
	登録番号 一級建築士大臣登録第218581号		
	所在地 沖縄県宜野湾市普天間2-47-16		

一級建築士事務所 東京都知事登録 第63438号 株式会社U'plan
一級建築士大臣登録第350502号 構造設計一級建築士第10339号 尾崎 光

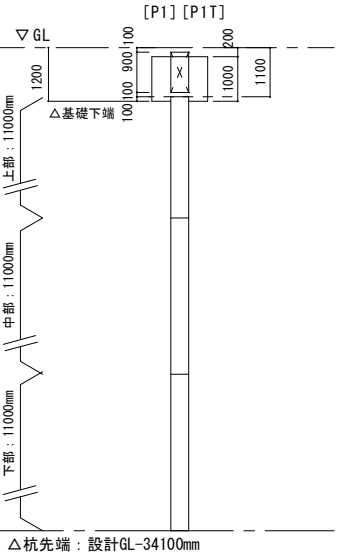
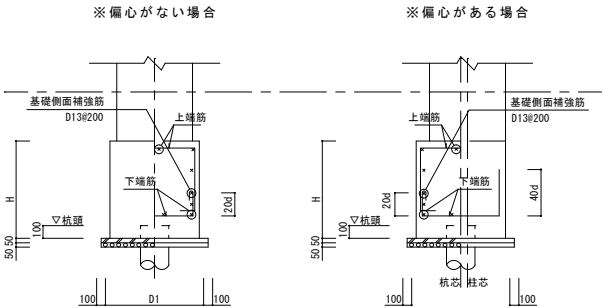
施工範囲：杭工事のみ

基礎リスト

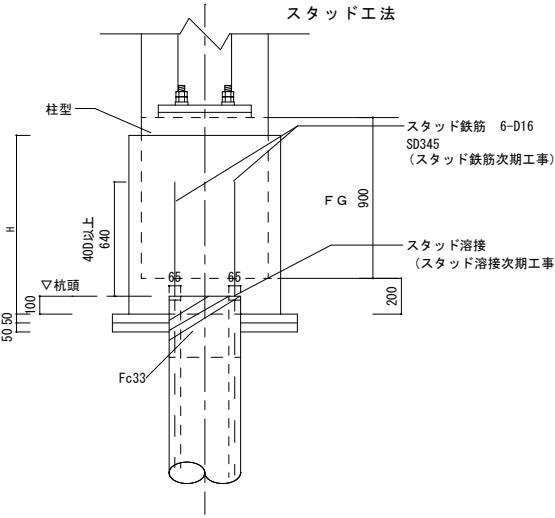
符号	D1	D2	H	Df	N1 ←		N2 ↓		側面補強筋 XYともに	備考
					上端筋	下端筋	上端筋	下端筋		
F1	850	1150	1000	1200	7-D16	7-D16	5-D16	5-D16	D13#200	
F2	850	850	1000	1200	5-D16	5-D16	5-D16	5-D16	D13#200	
F3	950	850	1000	1200	5-D16	5-D16	5-D16	5-D16	D13#200	
F3A	850	950	1000	1200	5-D16	5-D16	5-D16	5-D16	D13#200	
F4	850	1150	1000	1200	5-D16	5-D16	5-D16	5-D16	D13#200	
F5	800	800	1000	1200	5-D16	5-D16	5-D16	5-D16	D13#200	



基礎配筋要領図

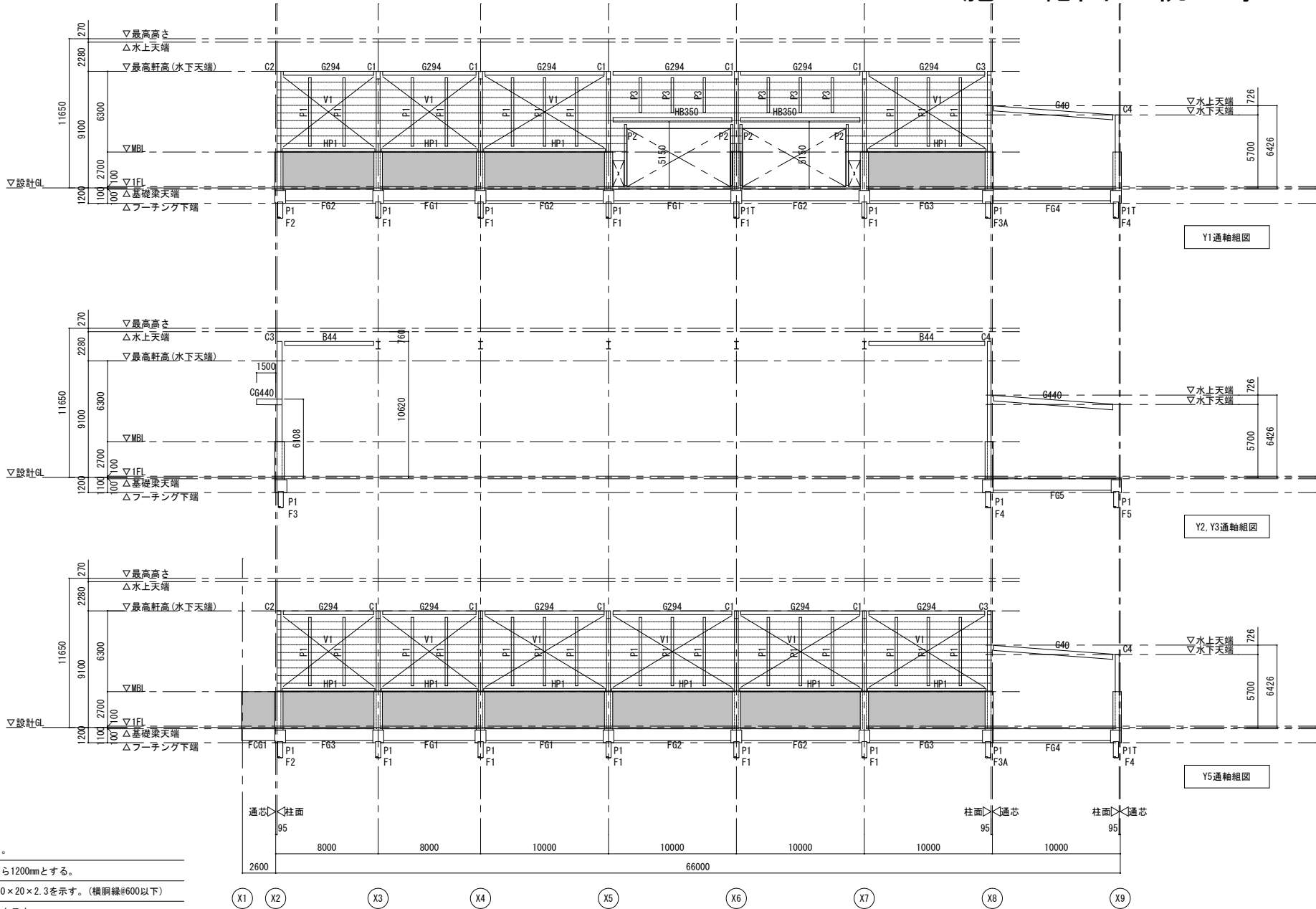


杭頭接合 要領図



工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上層建設工事 (本体・杭)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	杭・基礎リスト
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設部	縮尺	A1:1/****・A3:1/****
編 要	管理建築士 設 計 製 図	図面番号	S-16
検 印		設 名	(株) アーキ5D
		責 務 者 氏 名	新 里 均
		登 録 番 号	一級建築士大臣登録第218581号
		所 在 地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

施工範囲：杭工事のみ

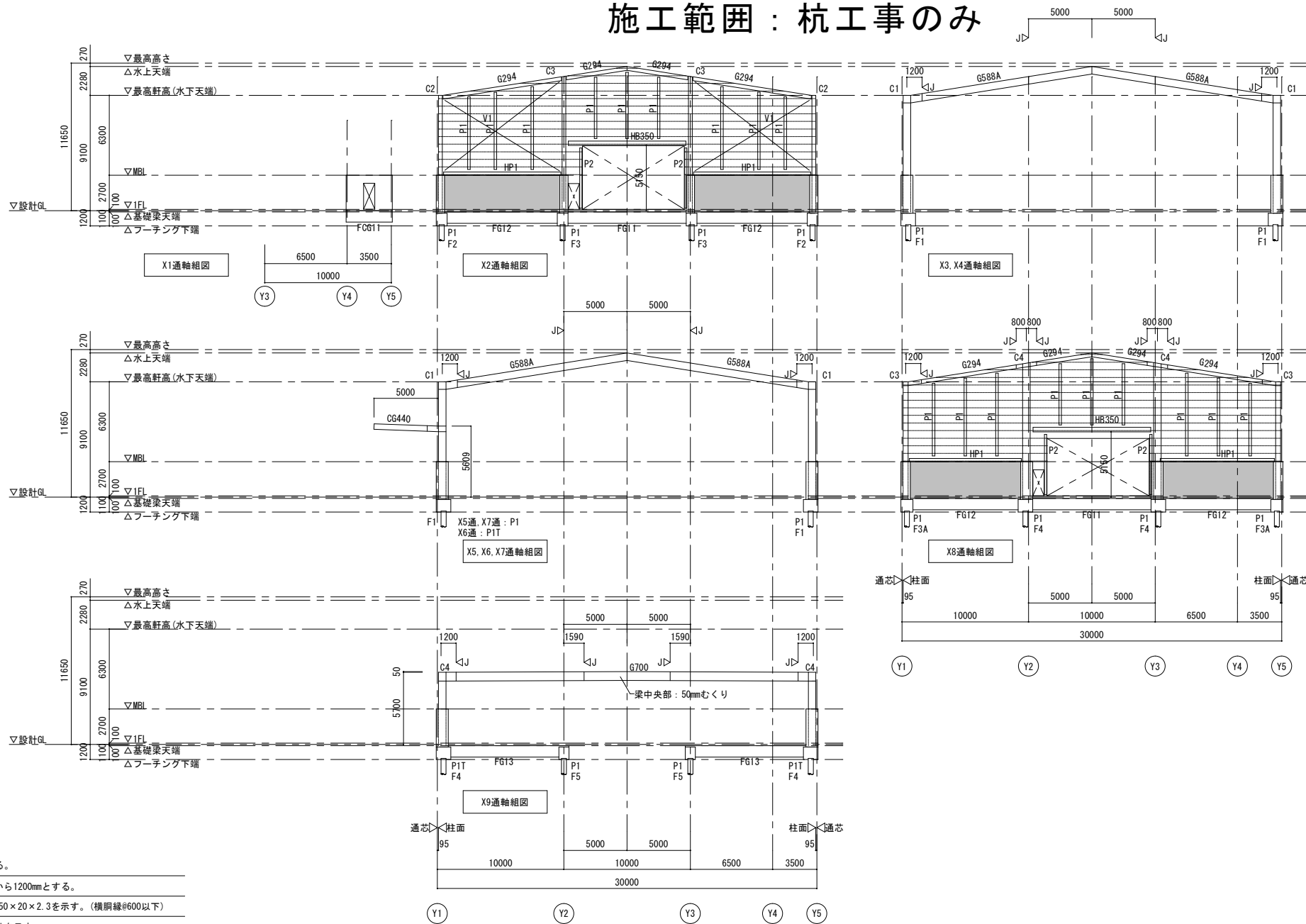


特記無き限り下記による。

- 継手位置は各柱芯から1200mmとする。
- はC-100×50×20×2.3を示す。(横胴線@600以下)
- はRC立上りを示す。

工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上層建設工事 (本体・杭)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	軸組図(1)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	図面尺	A1:1/150・A3:1/300
編 要	管理建築士 設 計 製 図	図面番号	S-21
検 印	設計 署名 氏名 新里 均	署名 氏名	新里 均
	署名 氏名 一級建築士大臣登録第218581号	署名 氏名	一級建築士大臣登録第218581号
	所在地 沖縄県宜野湾市普天間2-47-16	所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

施工範囲：杭工事のみ

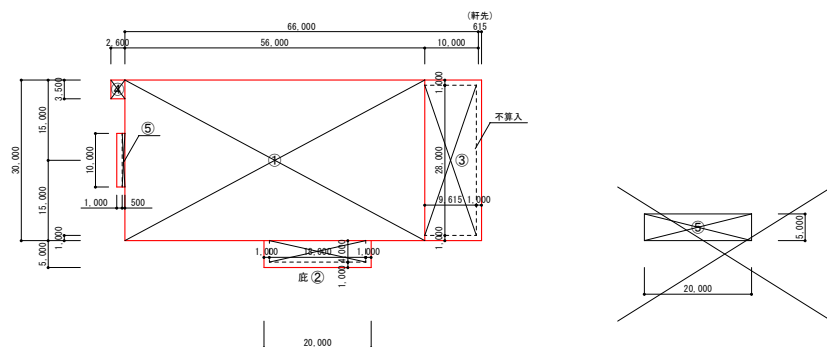


特記無き限り下記による。

- ・継手位置は各柱芯から1200mmとする。
- ・ — はC-100×50×20×2.3を示す。(横胴線@600以下)
- ・ ■ はRC立上りを示す。
- ・ ▨ は増打ちを示す。

工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上層建設工事 (本体・杭)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	軸組図(2)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/150・A3:1/300
		図面番号	S-22
摘要	設計 (株) アーキ5D		
管理建築士	設計	製図	図
検印			
登録番号	新里 均	登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16		

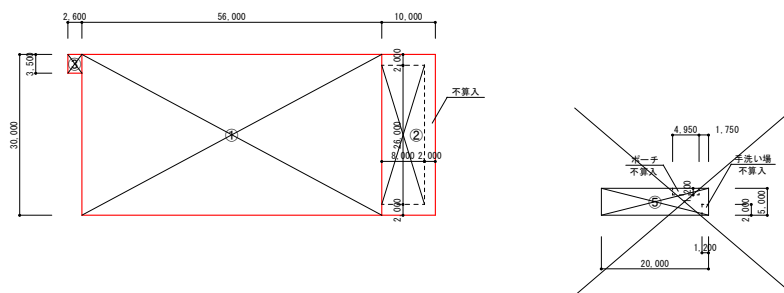
建築面積



倉庫棟		
番 号	算 定 式	算定結果
①	56.00×30.00	1680.00
②	18.00×4.00	72.00
③	9.615×28.00	269.22
④	2.60×3.50	9.10
⑤	10.00×0.50	5.00
合 計		2,035.32
建 築 面 積 (m ²)		2,035.32

休憩所様		
番 号	算 定 式	算定結果
①	20.00×5.00	100.00
	合 計	100.00
	建築面積（㎡）	100.00

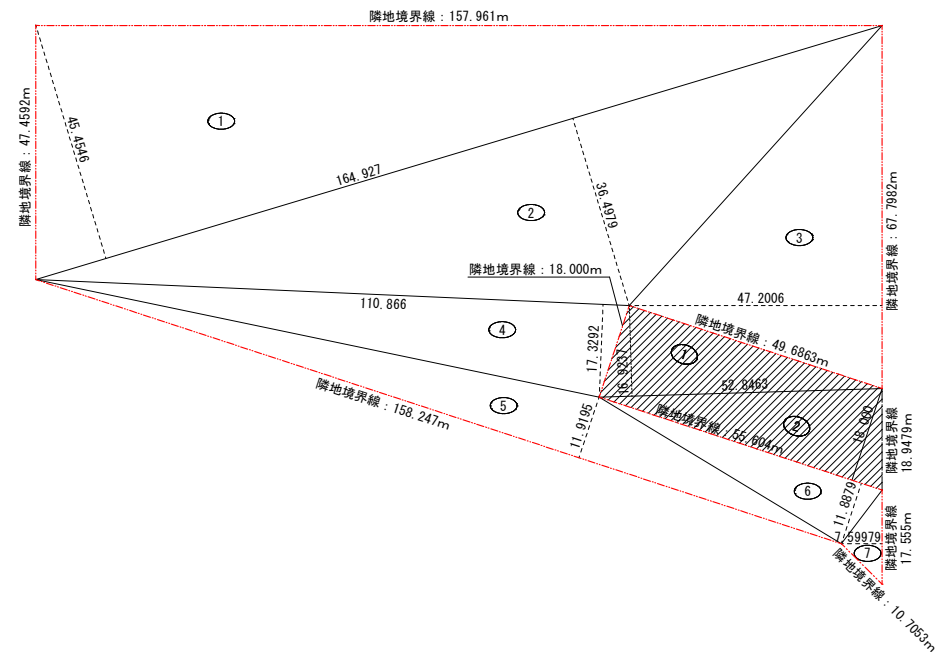
延べ床面積



倉庫棟		
番 号	算 定 式	算 定 結 果
①	56.00 × 30.00	1680.00
②	8.00 × 26.00	208.00
③	3.50 × 2.60	9.10
合 計		1,897.10
延べ床面積 (㎡)		1,897.10

[illegible]

敷地面積



凡例

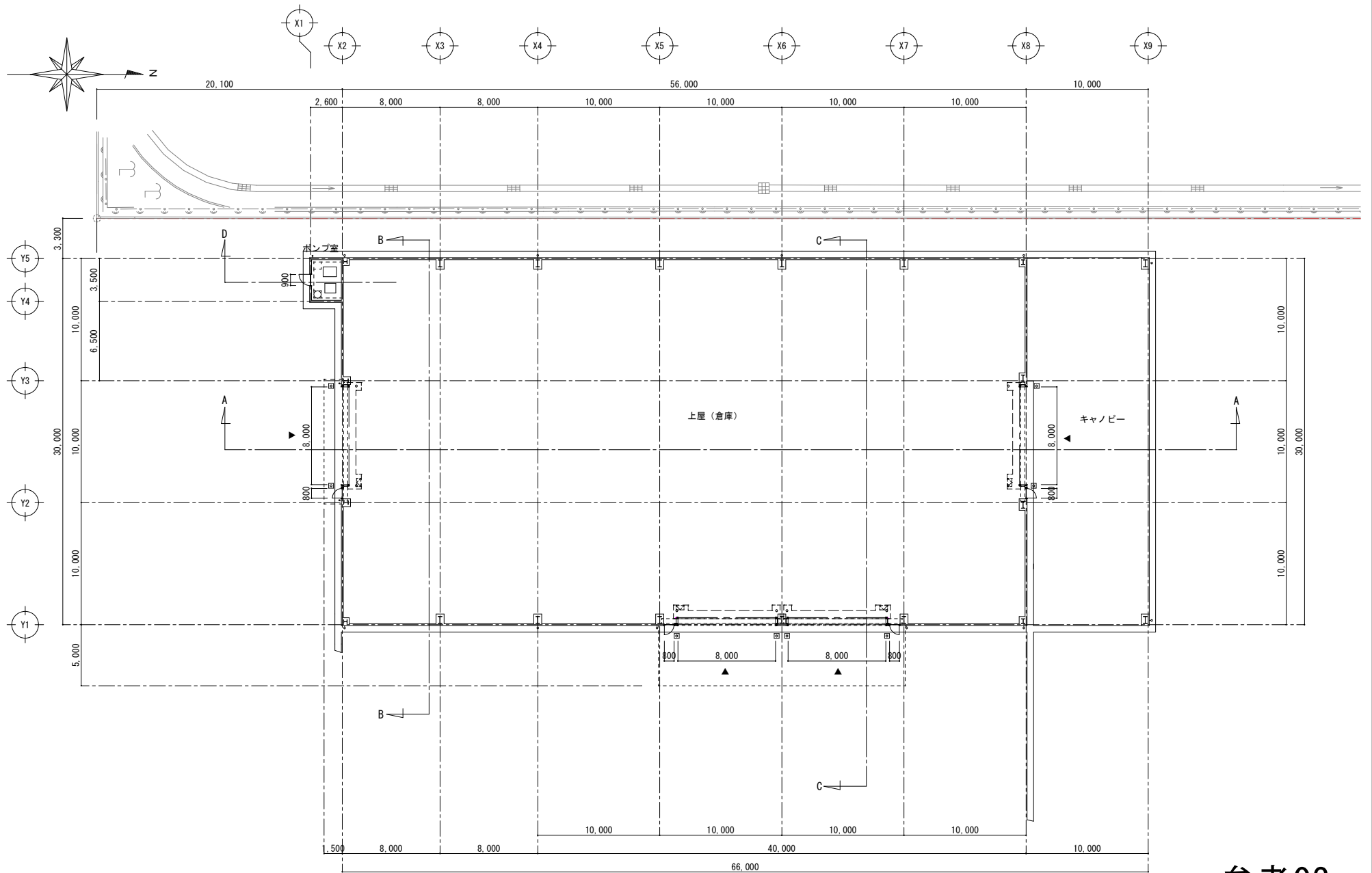
	倉庫棟敷地範囲を示す。
	休憩所棟敷地範囲を示す。

敷地求積図 $S=1/1000$

	番 号	底 辺	高 さ	倍 面 積	面 積	小 計	敷 地 面 積	敷地面積合計
倉庫棟	1	164. 927	45. 4546	7. 496. 6908142	3. 748. 3454071	10, 659. 0844975	10, 659. 08	11, 606. 69
	2	164. 927	36. 4979	6. 019. 4891533	3. 009. 74457665			
	3	67. 7982	47. 2006	3. 200. 11571892	1. 600. 05785946			
	4	110. 866	17. 3292	1. 921. 2190872	960. 6095436			
	5	158. 247	11. 9195	1. 886. 2251165	943. 11255825			
	6	55. 604	11. 8879	661. 0147916	330. 5073958			
	7	17. 555	7. 59979	133. 41431345	66. 707156725			
休憩所棟	1	52-8463	16. 9237	894. 365704	447. 182852	947. 6170637	947. 61	
	2	55-604	18. 000	1, 000. 872	500. 436			

参考01

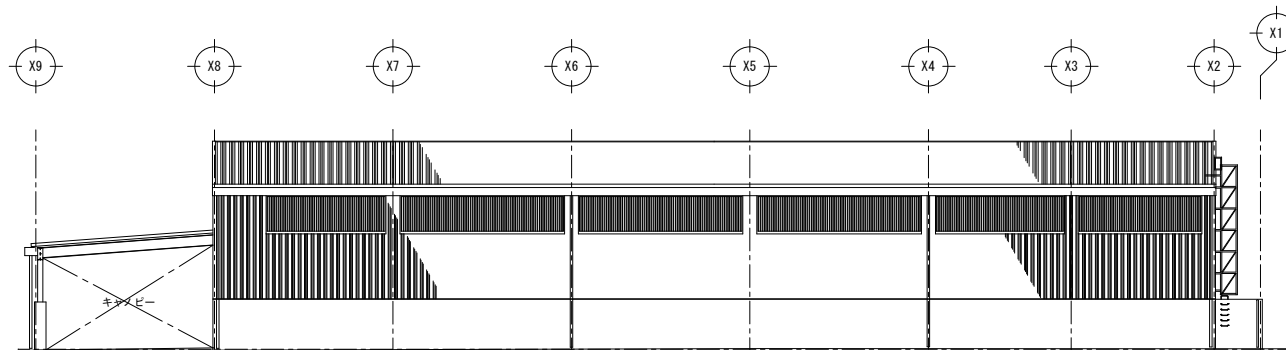
工程名稱	(經修) 新嘉坡第10号上層建築工事 (本体・柱)	工程年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	面積名称	面積求積度
免注税種	那覇港管理組合 全面建設部 計画建設課	面積 尺	A1:S=1/500 A3:S=1/1000
摘要		縮小倍率	A=07
映 印	管理建築士 設 計	設 計 名 称	アーキエ D
	製 図	製 図 名 称	新里 均 多摩雄 大 所 冲 建設課 野村美天 関247-16



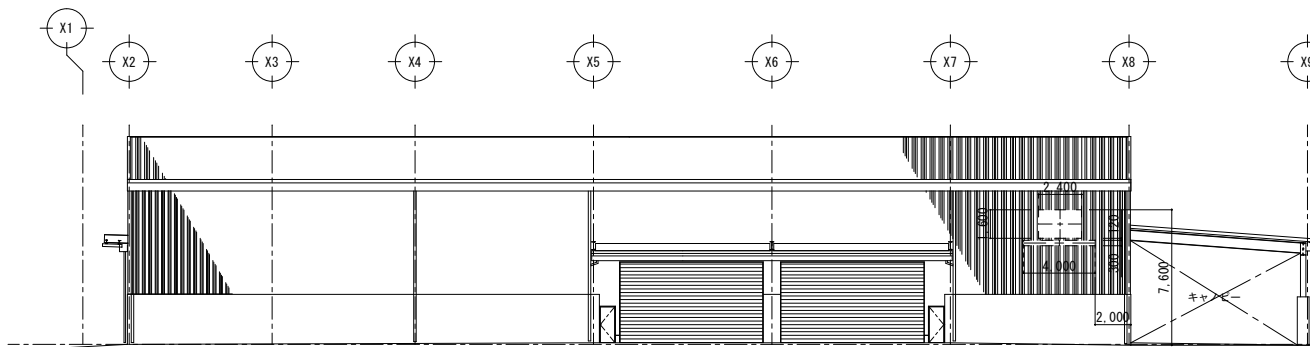
平面図 (1) S=1/300

参考02

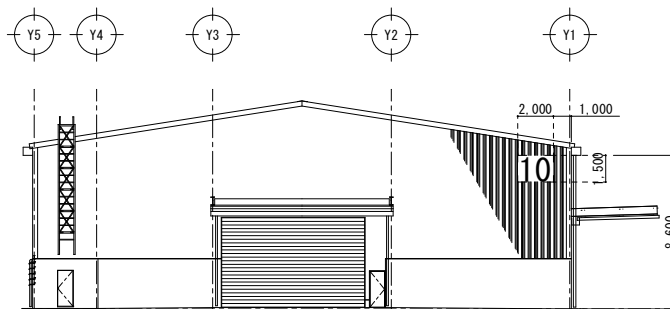
工事名称		(仮称) 新港心頭10号上屋建設工事 (本体・建築)	工事年度	令和8年度	
工事場所		那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	平面図 (1)	
発注機関		那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1: S=1/150 A3: S=1/300	
構 要			図面番号	A-10	
検 印	管理建築士	設 計	製 図	設 名 称	(株) アーキ5 D
				計 資格者氏名	新里 均
				者 登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
				所 在 地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16



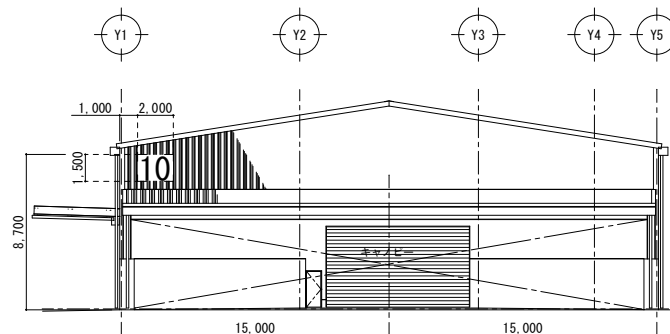
西側立面図 S=1/400



東側立面図 S=1/400



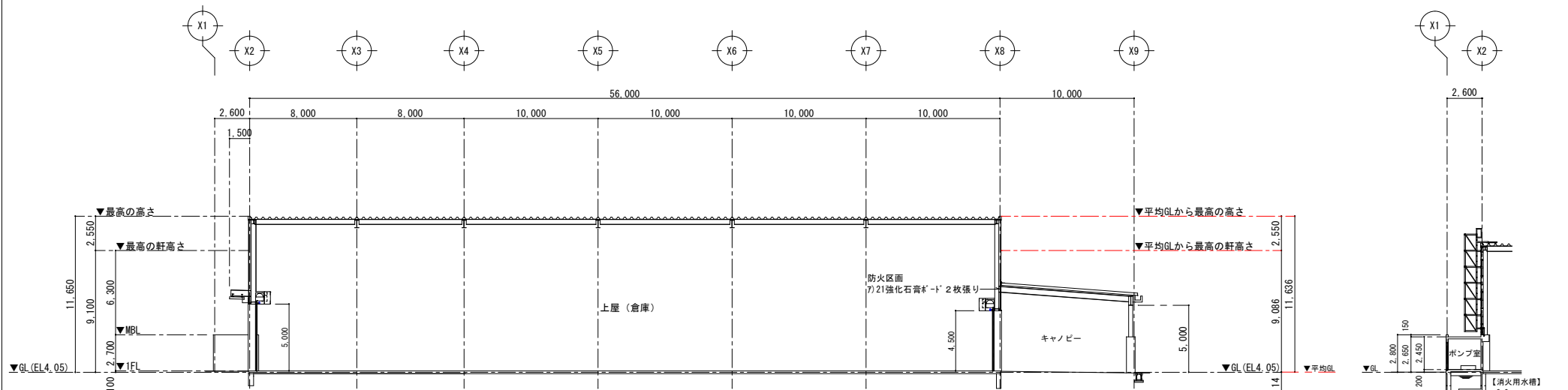
南側立面図 S=1/400



北側立面図 S=1/400

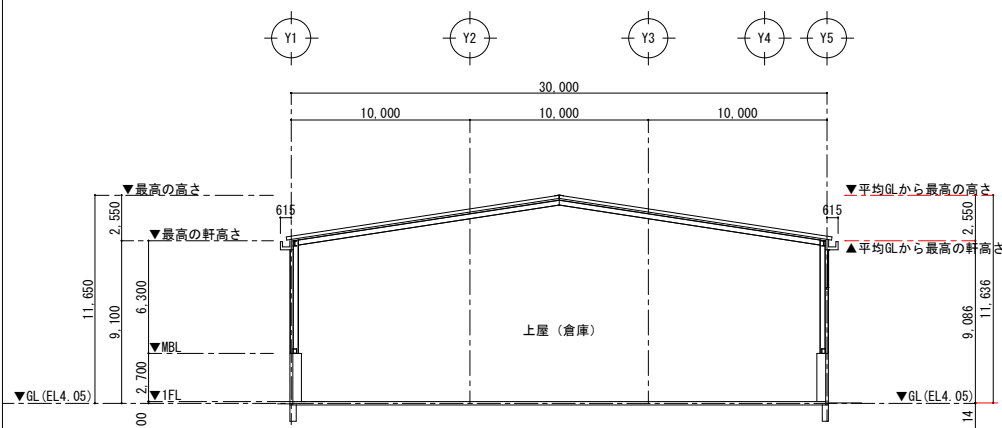
参考03

工事名称	(仮称)新港心頭10号上層建設工事(本体・杭)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	立面図
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	総尺	A1:S=1/150 A3:S=1/300
		図面番号	A-13
摘要	設計製図		
機印	管理建築士	設計	製図
		設計者氏名	(株)アーキ5D
		資格者氏名	新里 均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

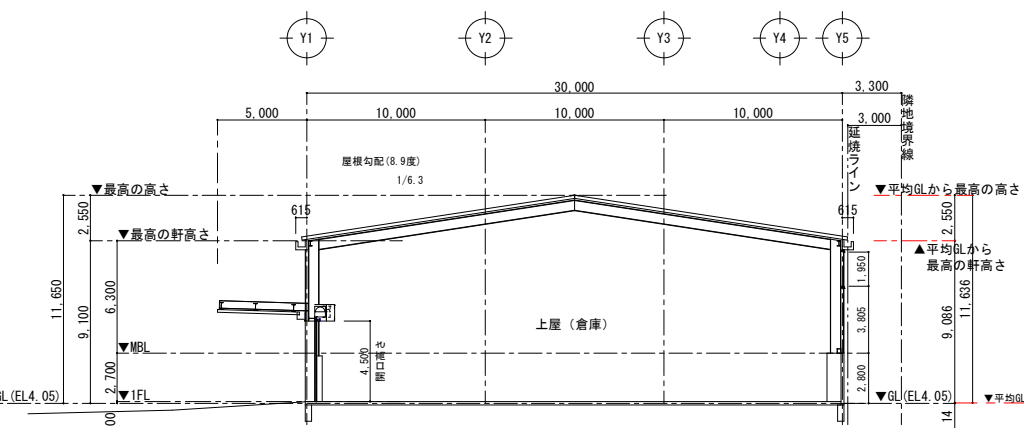


A断面図 S=1/300

D断面図 S=1/300



B断面図 S=1/300



C断面図 S=1/300

凡例

- 平均地盤からの基準を示す。
- 延焼ラインを示す。

参考04

工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体・机)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	断面図
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	総尺	A1:S=1/150 A3:S=1/300
図面番号		図面番号	A-14
摘要	管理建築士 設計 製図	設計者氏名	(株)アーキ5D
校印		資格者氏名	新里 均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16